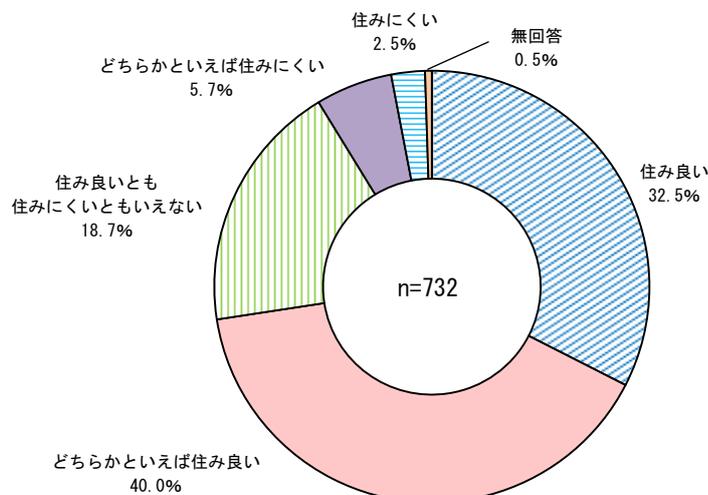


調 査 結 果

1 北海道総合計画について

問1 あなたは、現在住んでいる市町村の住み心地について、どのように感じていますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「どちらかといえば住み良い」(40.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「住み良い」(32.5%)、「住み良いとも住みにくいともいえない」(18.7%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば住み良い」については、道北連携地域(47.1%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(45.6%)となっている。「住み良い」については、道央広域連携地域(34.3%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(33.3%)と釧路・根室連携地域(33.3%)が同率となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば住み良い」については、札幌市(44.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(42.9%)となっている。「住み良い」については、札幌市(42.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(29.8%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば住み良い」については、男性41.9%、女性38.7%となっており、「住み良い」については、男性30.4%、女性34.5%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば住み良い」については、30～39歳(49.5%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(45.7%)となっている。「住み良い」については、50～59歳(36.5%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(33.3%)となっている。

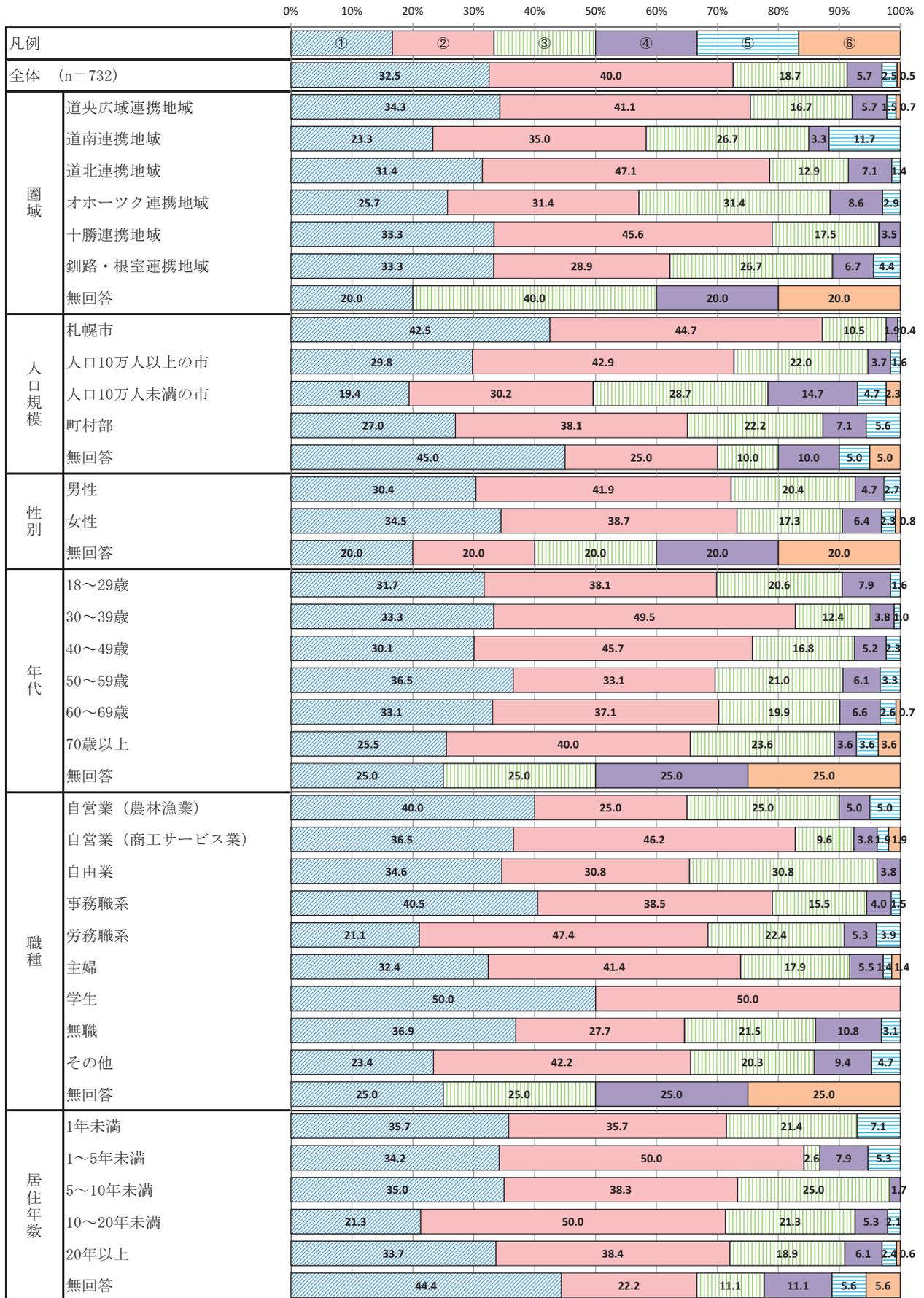
【職種別】

「どちらかといえば住み良い」については、労務職系(47.4%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス)(46.2%)となっている。「住み良い」については、事務職系(40.5%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(40.0%)となっている。

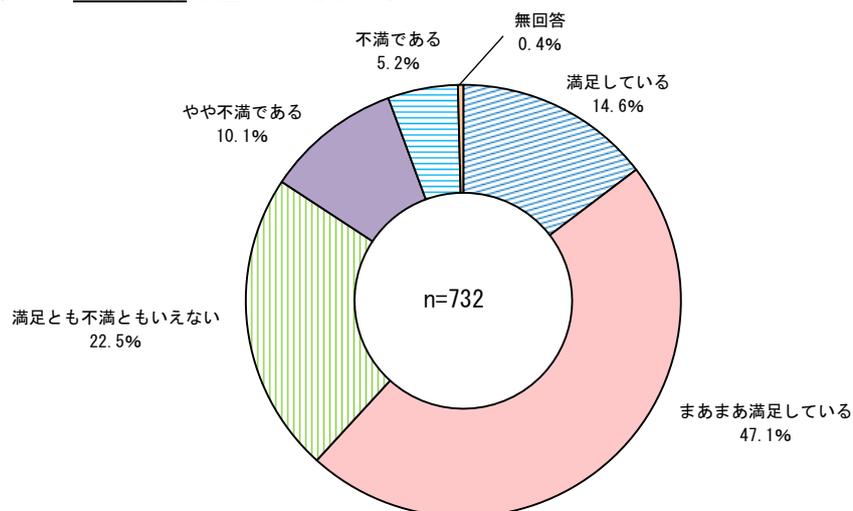
【居住年数別】

「どちらかといえば住み良い」については、1～5年未満(50.0%)と10～20年未満(50.0%)が同率で最も割合が高く、次いで20年以上(38.4%)となっている。「住み良い」については、1年未満(35.7%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(35.0%)となっている。

①住み良い ②どちらかといえば住み良い ③住み良いとも住みにくともいえない
 ④どちらかといえば住みにくい ⑤住みにくい ⑥無回答



問2 あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「まあまあ満足している」(47.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「満足とも不満ともいえない」(22.5%)、「満足している」(14.6%)の順となっている。

【圏域別】

「まあまあ満足している」については、釧路・根室連携地域(55.6%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(49.3%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、道北連携地域(31.4%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(28.3%)となっている。

【人口規模別】

「まあまあ満足している」については、札幌市(53.4%)が最も割合が高く、次いで町村部(44.4%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、人口10万人以上の市(27.2%)が最も割合が高く、次いで札幌市(21.4%)となっている。

【性別】

「まあまあ満足している」については、男性49.9%、女性44.8%となっており、「満足とも不満ともいえない」については、男性23.0%、女性22.2%となっている。

【年代別】

「まあまあ満足している」については、30～39歳(53.3%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(52.3%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、70歳以上(25.5%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(24.8%)となっている。

【職種別】

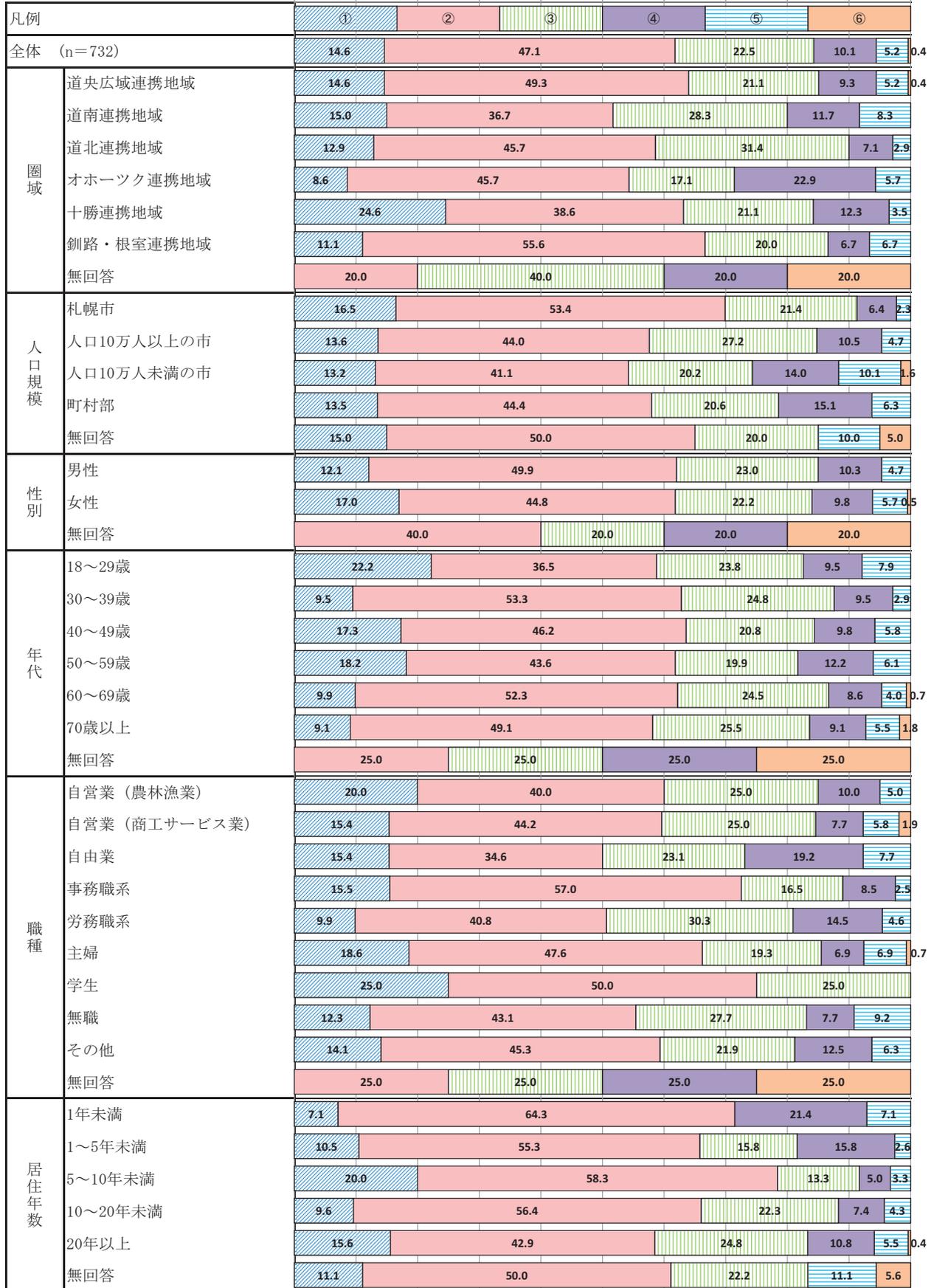
「まあまあ満足している」については、事務職系(57.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(47.6%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、労務職系(30.3%)が最も割合が高く、次いで無職(27.7%)となっている。

【居住年数別】

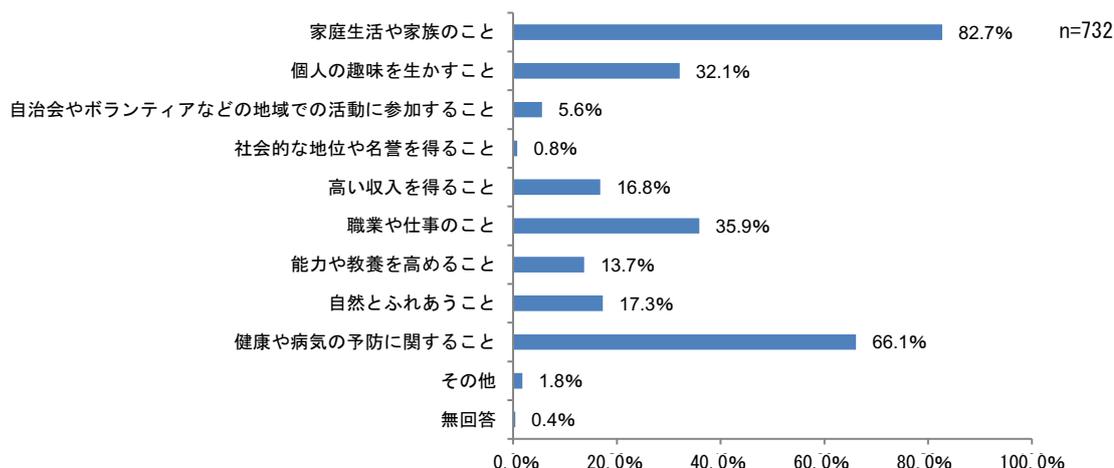
「まあまあ満足している」については、1年未満(64.3%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(58.3%)となっている。「満足とも不満ともいえない」については、20年以上(24.8%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(22.3%)となっている。

①満足している ②まあまあ満足している ③満足とも不満ともいえない
 ④やや不満である ⑤不満である ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 あなたは、今後の生活の中で、特にどのようなことを大切にしたいと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「家庭生活や家族のこと」(82.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「健康や病気の予防に関すること」(66.1%)、「職業や仕事のこと」(35.9%)の順となっている。

【圏域別】

「家庭生活や家族のこと」については、オホーツク連携地域(88.6%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(88.3%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、釧路・根室連携地域(77.8%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(68.6%)となっている。

【人口規模別】

「家庭生活や家族のこと」については、人口10万人以上の市(84.8%)が最も割合が高く、次いで町村部(84.1%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、人口10万人未満の市(69.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(65.4%)となっている。

【性別】

「家庭生活や家族のこと」については、男性82.6%、女性83.5%となっており、「健康や病気の予防に関すること」については、男性61.4%、女性70.4%となっている。

【年代別】

「家庭生活や家族のこと」については、40～49歳(89.0%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(87.6%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、60～69歳(80.8%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(74.6%)となっている。

【職種別】

「家庭生活や家族のこと」については、事務職系(87.5%)が最も割合が高く、次いで主婦(86.9%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、主婦(80.0%)が最も割合が高く、次いでその他(75.0%)となっている。

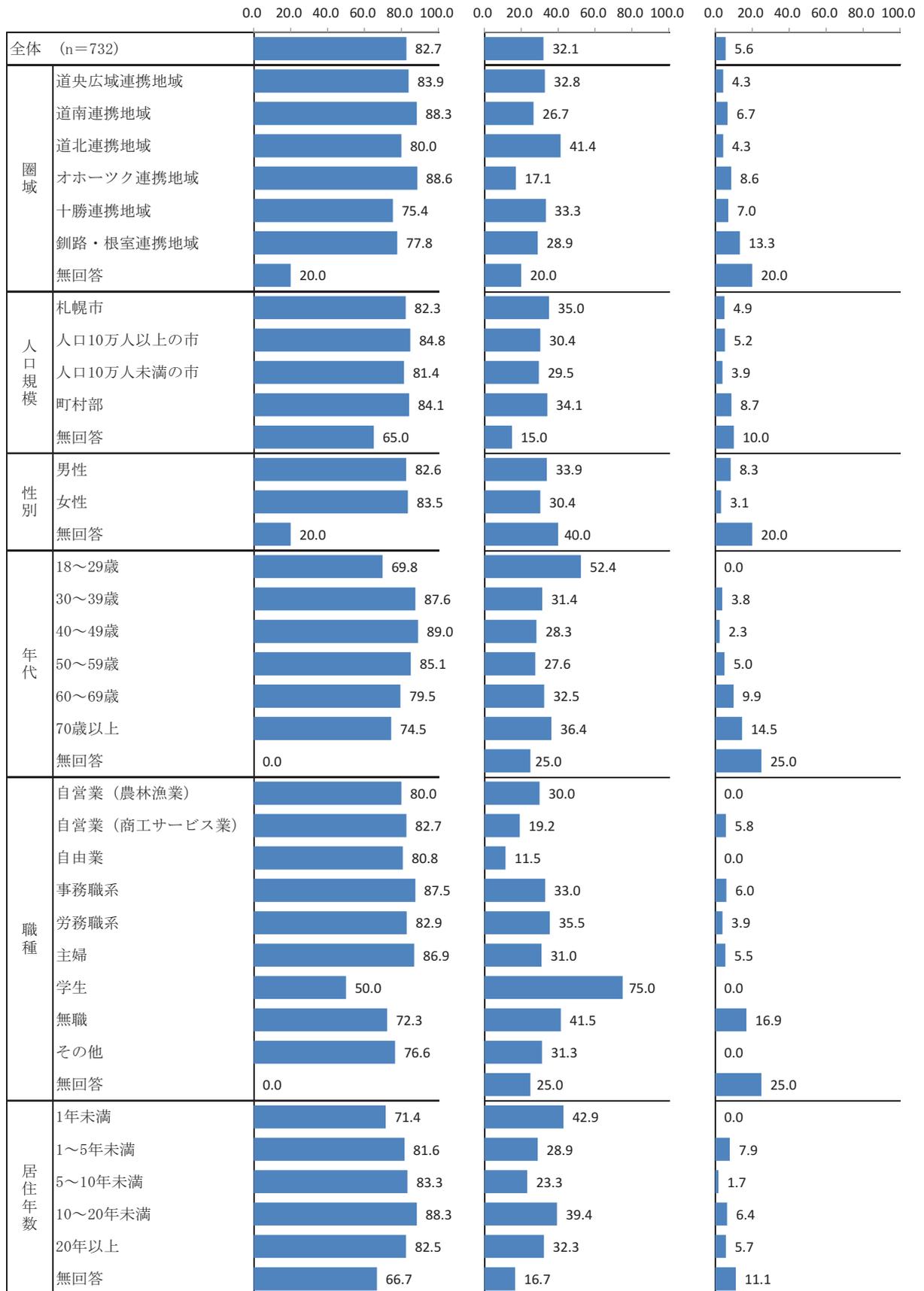
【居住年数別】

「家庭生活や家族のこと」については、10～20年未満(88.3%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(83.3%)となっている。「健康や病気の予防に関すること」については、20年以上(69.5%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(57.9%)となっている。

家庭生活や家族のこと

個人の趣味を生かすこと

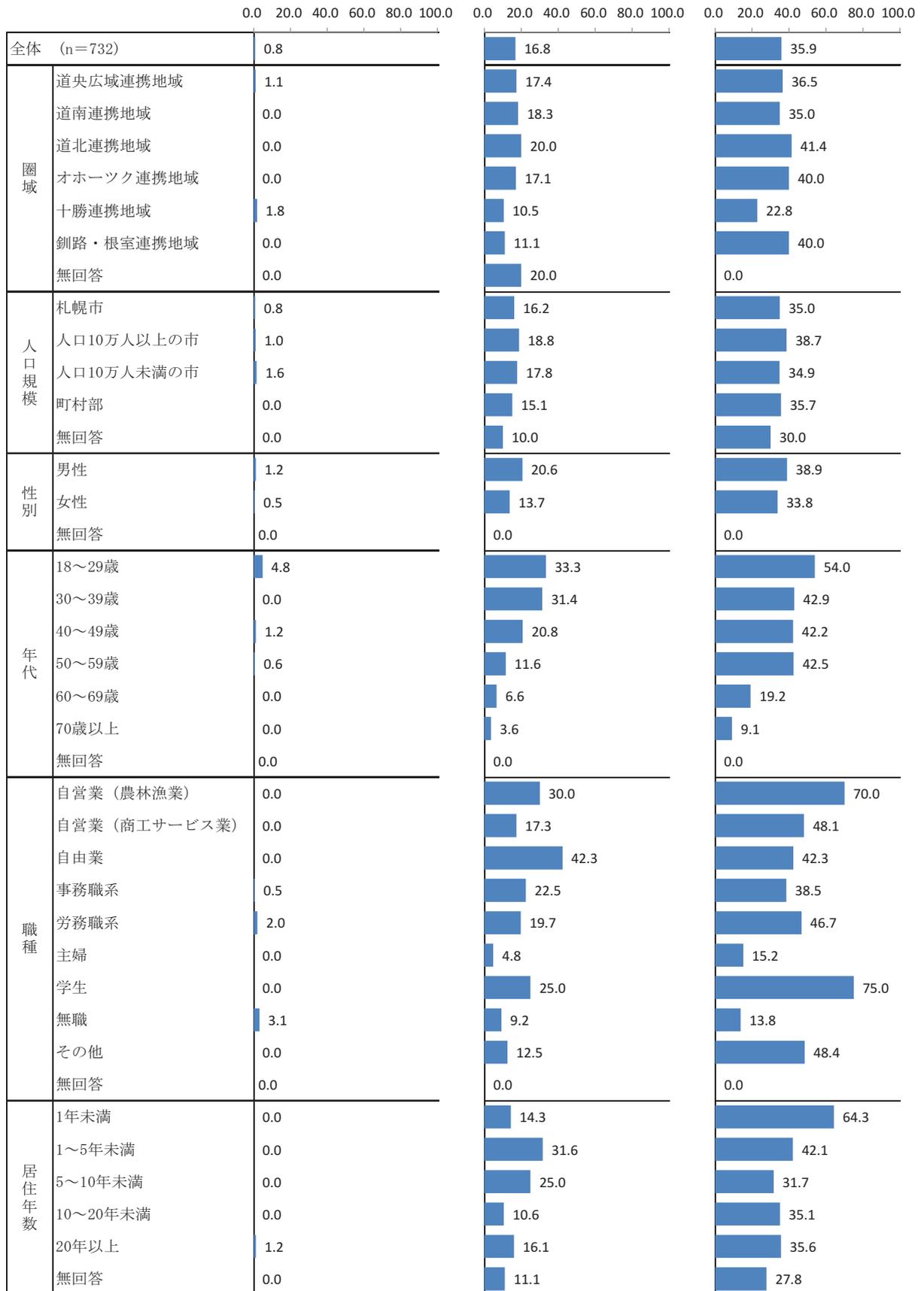
自治会やボランティアなどの地域での活動に参加すること

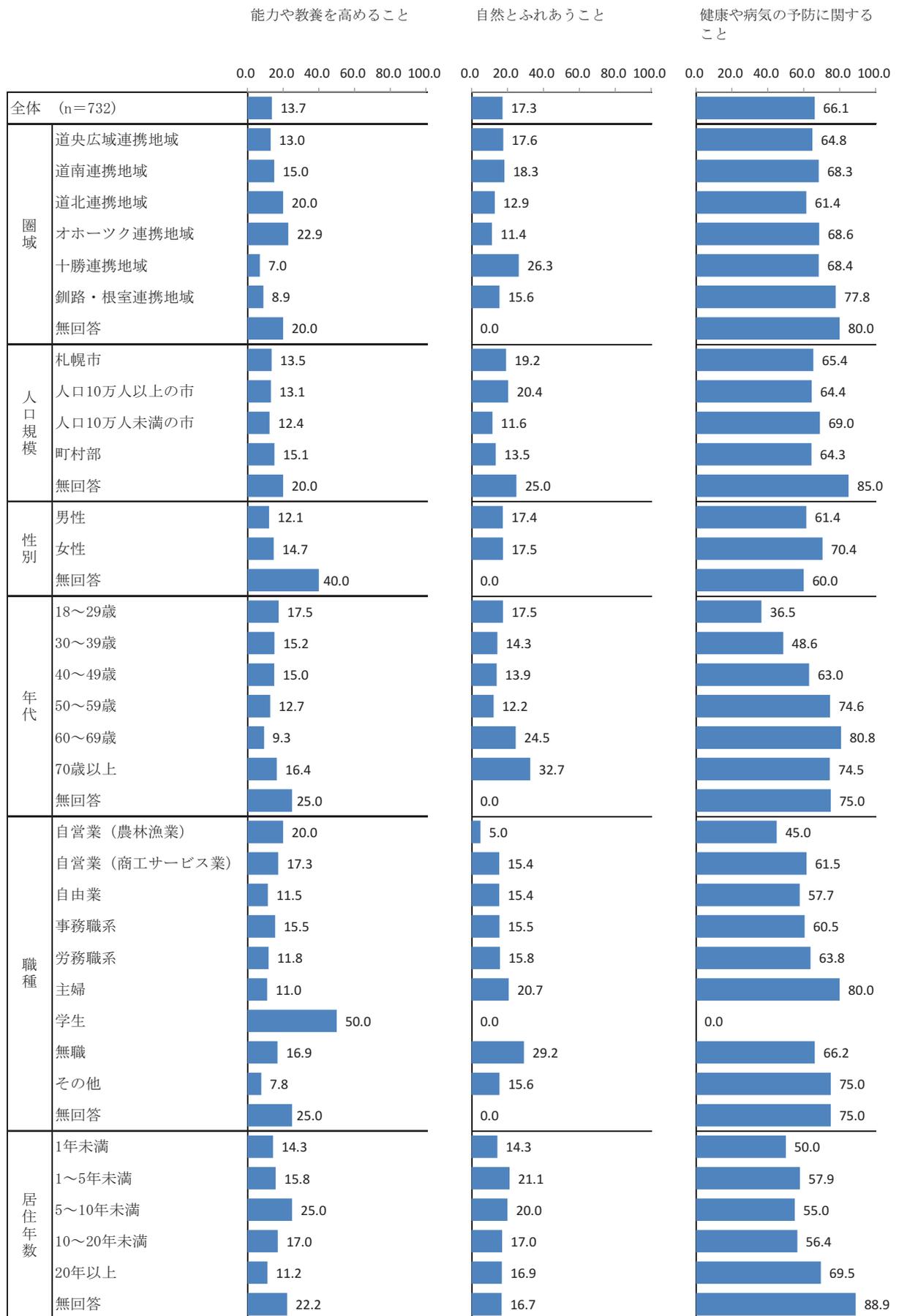


社会的な地位や名誉を得ること

高い収入を得ること

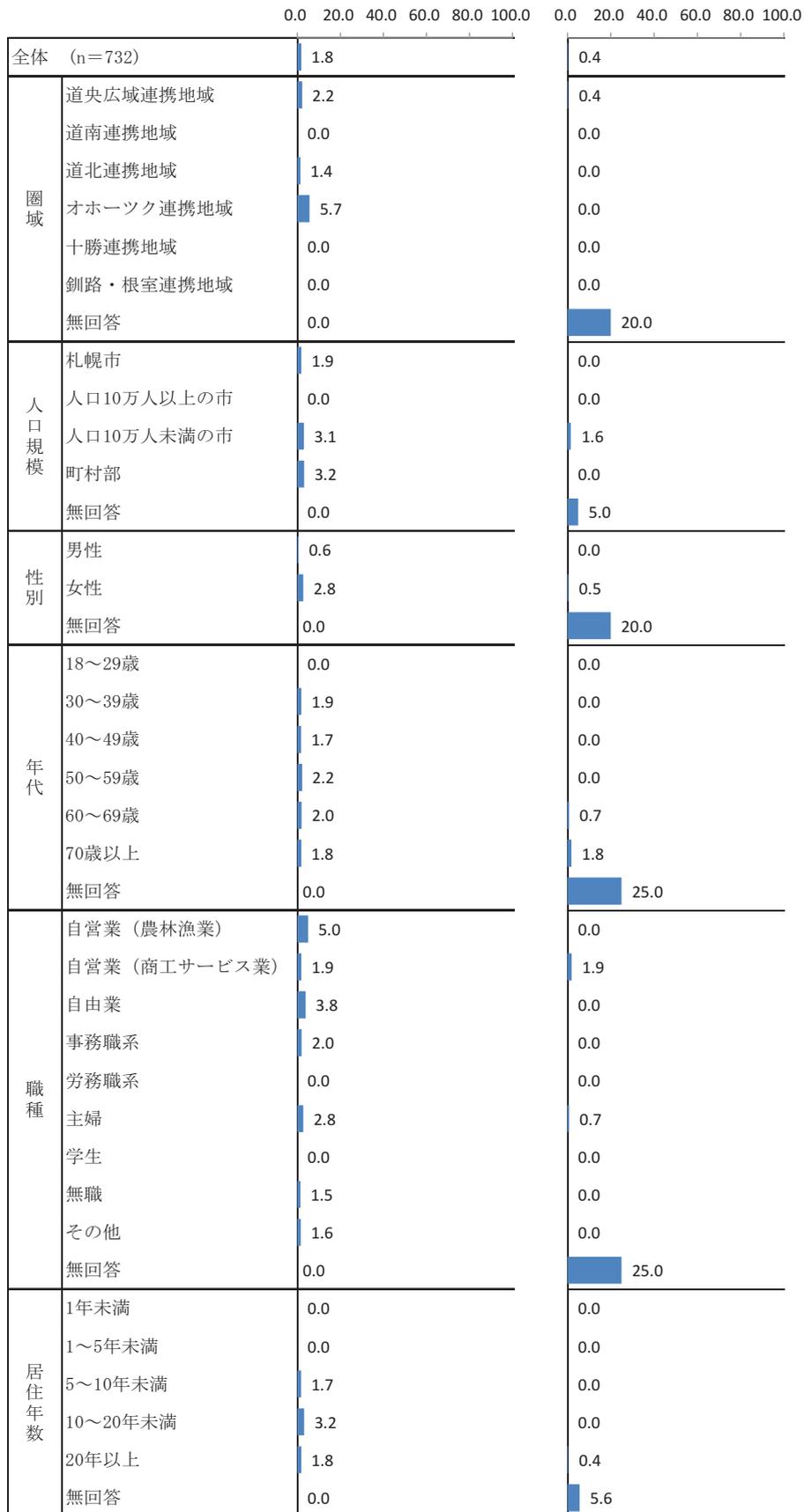
職業や仕事のこと



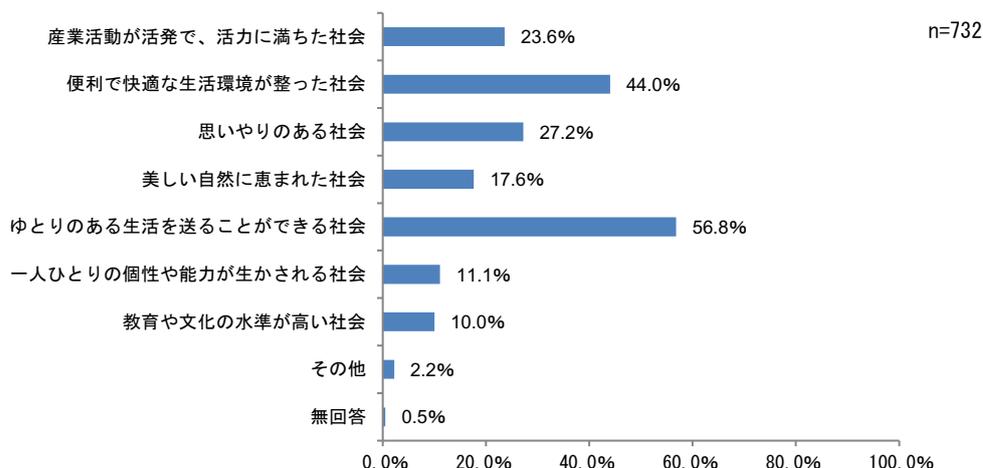


その他

無回答



問4 あなたは、2030年(11年後)頃の北海道がどのような社会であってほしいと思いますか。次の中から2つまでお選びください。



【全体】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」(56.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「便利で快適な生活環境が整った社会」(44.0%)、「思いやりのある社会」(27.2%)の順となっている。

【圏域別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、道北連携地域(72.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(63.3%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、十勝連携地域(49.1%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(48.9%)となっている。

【人口規模別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、人口10万人以上の市(60.7%)が最も割合が高く、次いで町村部(59.5%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、町村部(46.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(45.7%)となっている。

【性別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、男性56.9%、女性57.0%となっており、「便利で快適な生活環境が整った社会」については、男性42.5%、女性45.4%となっている。

【年代別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、60～69歳(63.6%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(59.7%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、18～29歳(52.4%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(50.9%)となっている。

【職種別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、労務職系(65.1%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(65.0%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、自由業(57.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(55.0%)となっている。

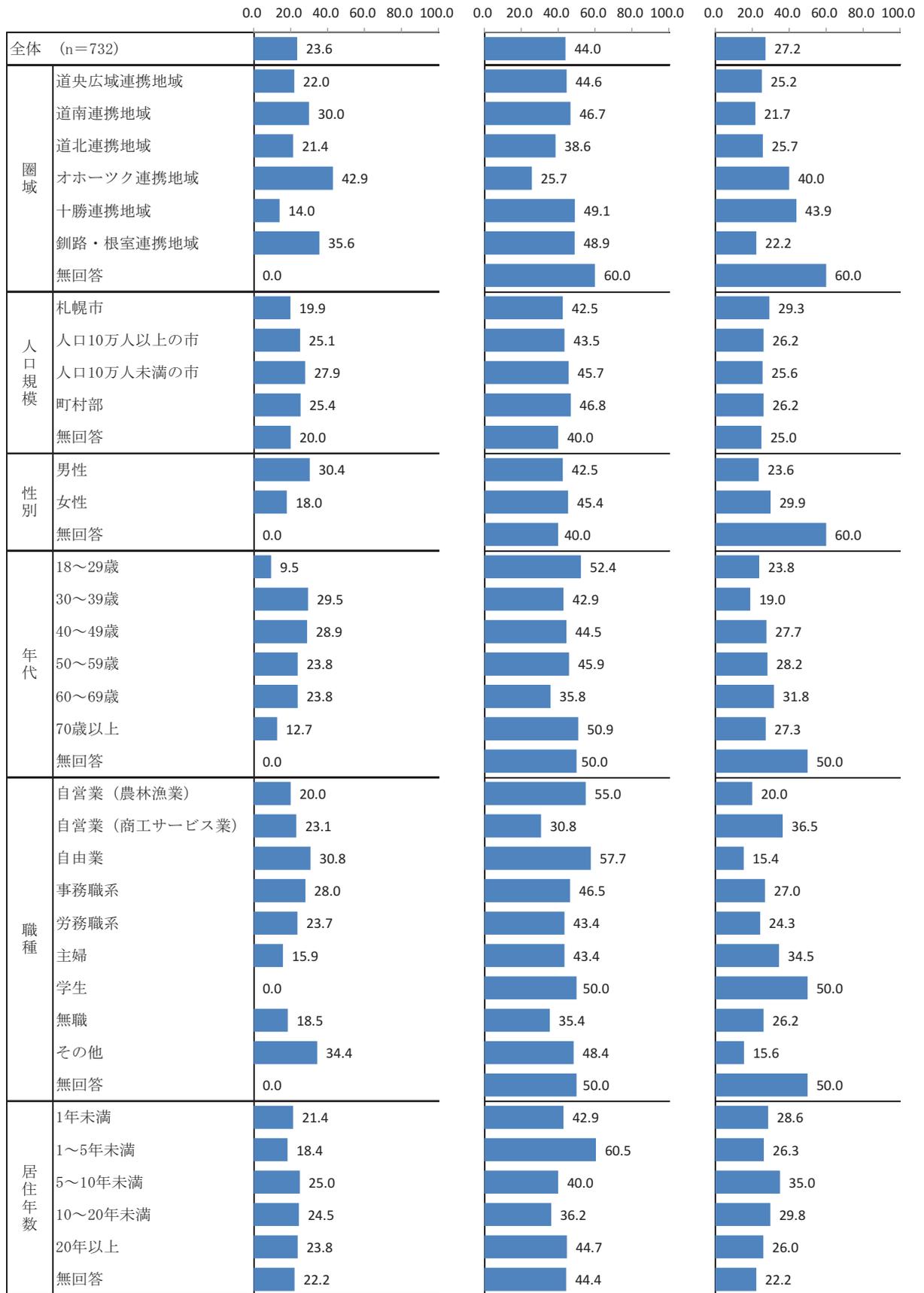
【居住年数別】

「ゆとりのある生活を送ることができる社会」については、20年以上(59.6%)が最も割合が高く、次いで1年未満(57.1%)となっている。「便利で快適な生活環境が整った社会」については、1～5年未満(60.5%)が最も割合が高く、次いで20年以上(44.7%)となっている。

産業活動が活発で、活力に満ちた社会

便利で快適な生活環境が整った社会

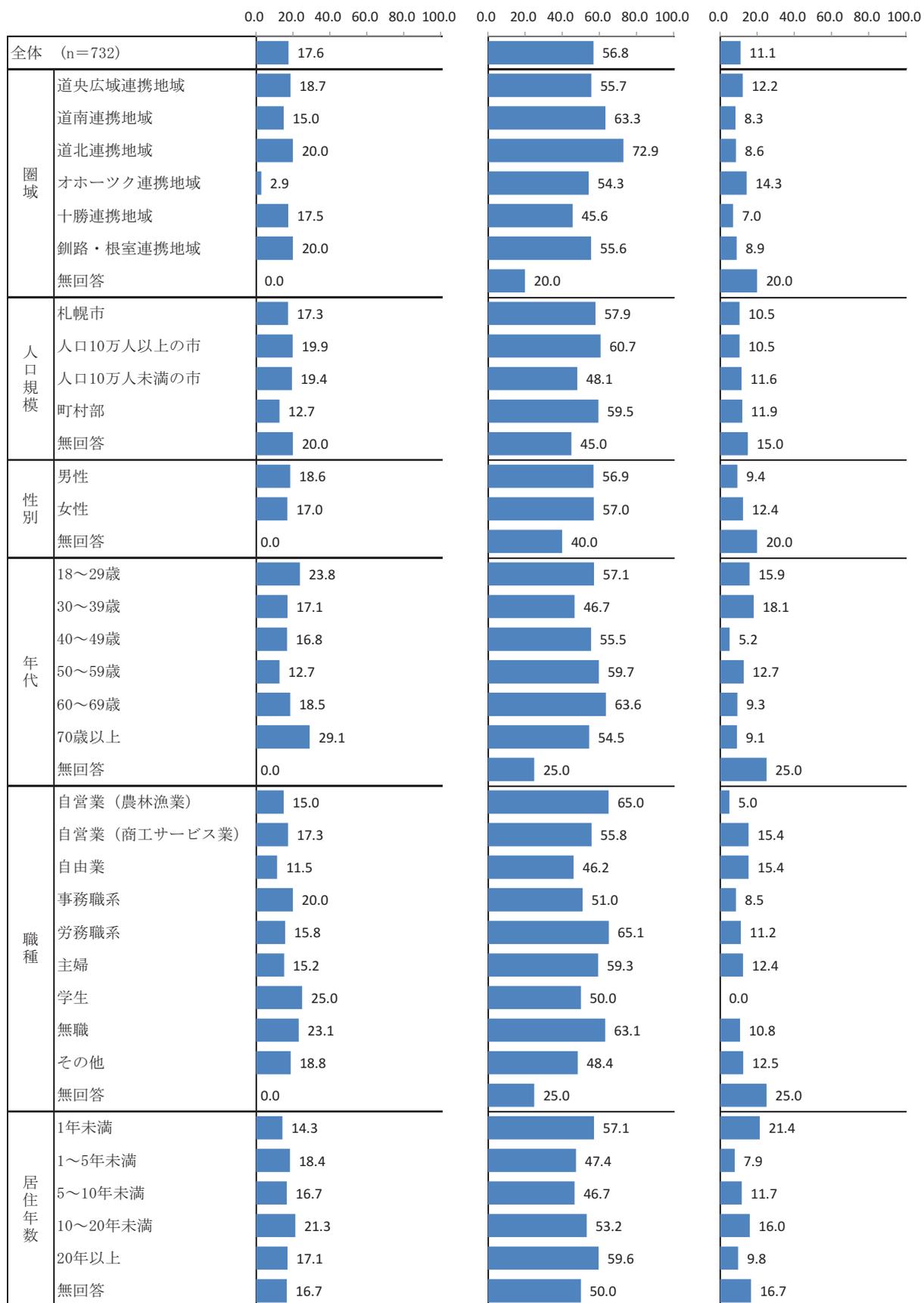
思いやりのある社会



美しい自然に恵まれた社会

ゆとりのある生活を送ることができる社会

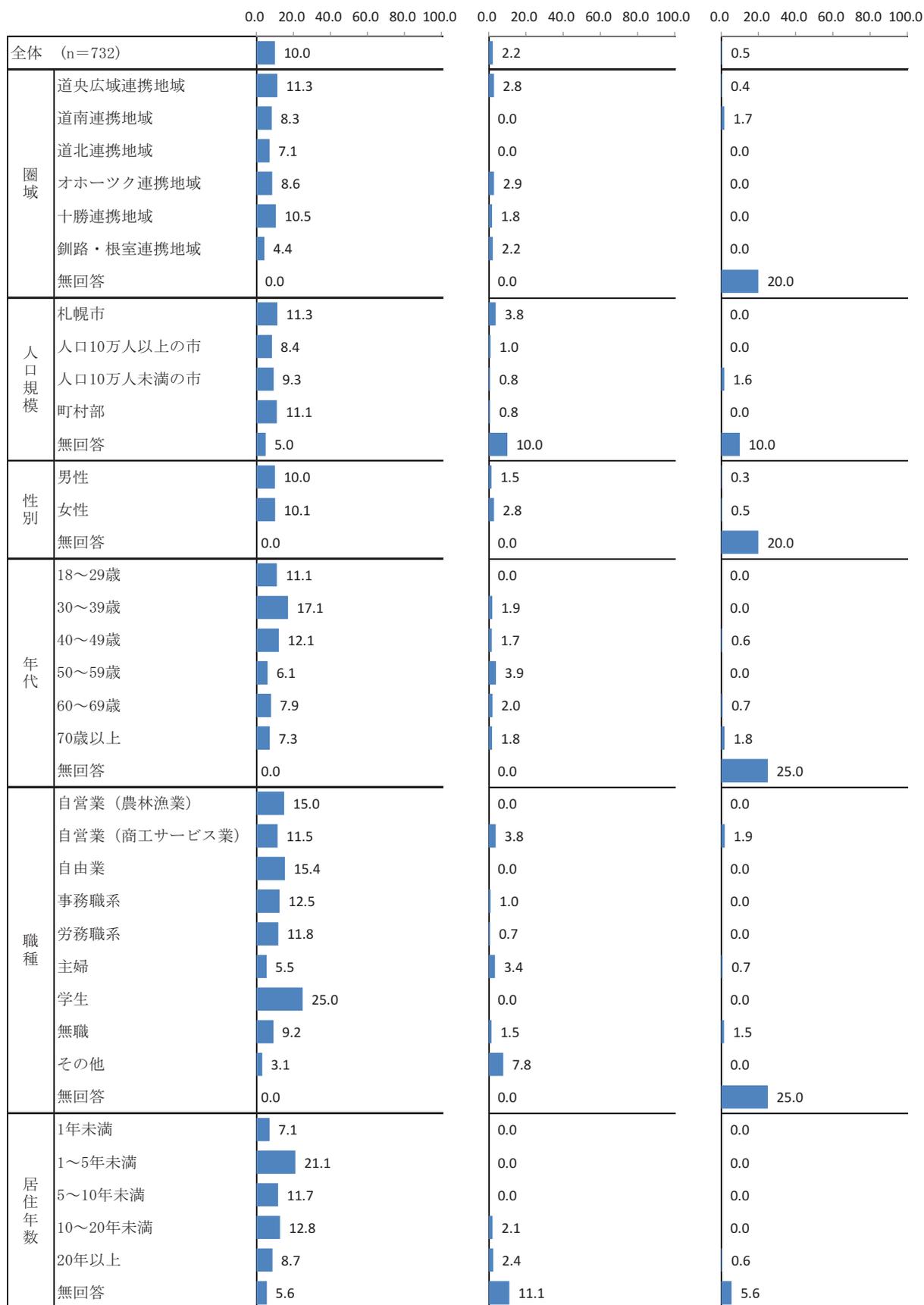
一人ひとりの個性や能力が生かされる社会



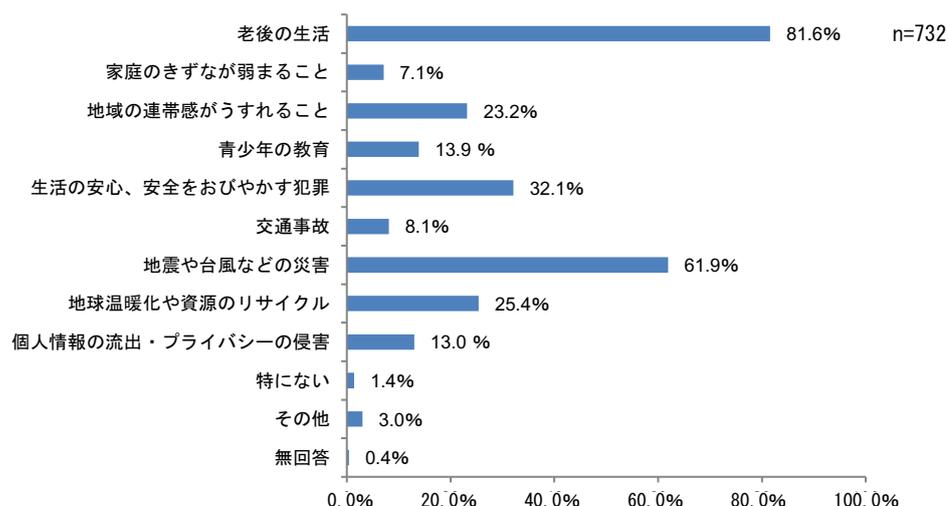
教育や文化の水準が高い社会

その他

無回答



問5 あなたの家庭や地域の中で、今後、どのようなことが特に大きな問題になると
 思いますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「老後の生活」(81.6%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「地震や台風などの災害」(61.9%)、「生活の安心、安全をおびやかす犯罪」(32.1%)の順となっている。

【圏域別】

「老後の生活」については、釧路・根室連携地域(93.3%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(88.6%)となっている。「地震や台風などの災害」については、釧路・根室連携地域(75.6%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(71.9%)となっている。

【人口規模別】

「老後の生活」については、町村部(84.9%)が最も割合が高く、次いで札幌市(81.6%)となっている。「地震や台風などの災害」については、札幌市(63.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(61.8%)となっている。

【性別】

「老後の生活」については、男性82.9%、女性80.7%となっており、「地震や台風などの災害」については、男性57.5%、女性65.7%となっている。

【年代別】

「老後の生活」については、60～69歳(87.4%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(86.7%)となっている。「地震や台風などの災害」については、50～59歳(68.5%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(65.5%)となっている。

【職種別】

「老後の生活」については、労務職系(85.5%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(85.0%)となっている。「地震や台風などの災害」については、主婦(68.3%)が最も割合が高く、次いで事務職系(66.5%)となっている。

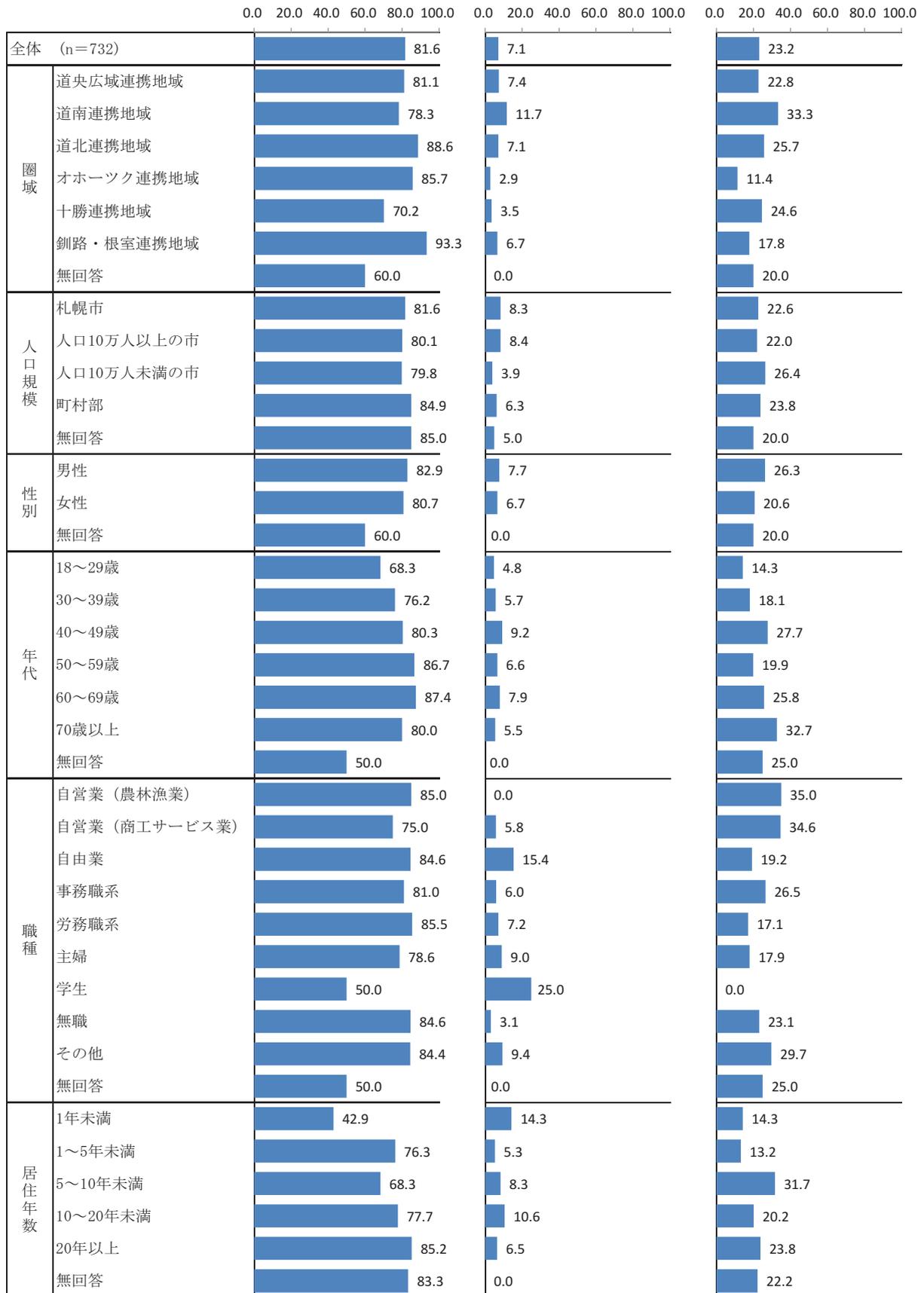
【居住年数別】

「老後の生活」については、20年以上(85.2%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(77.7%)となっている。「地震や台風などの災害」については、1～5年未満(65.8%)が最も割合が高く、次いで1年未満(64.3%)となっている。

老後の生活

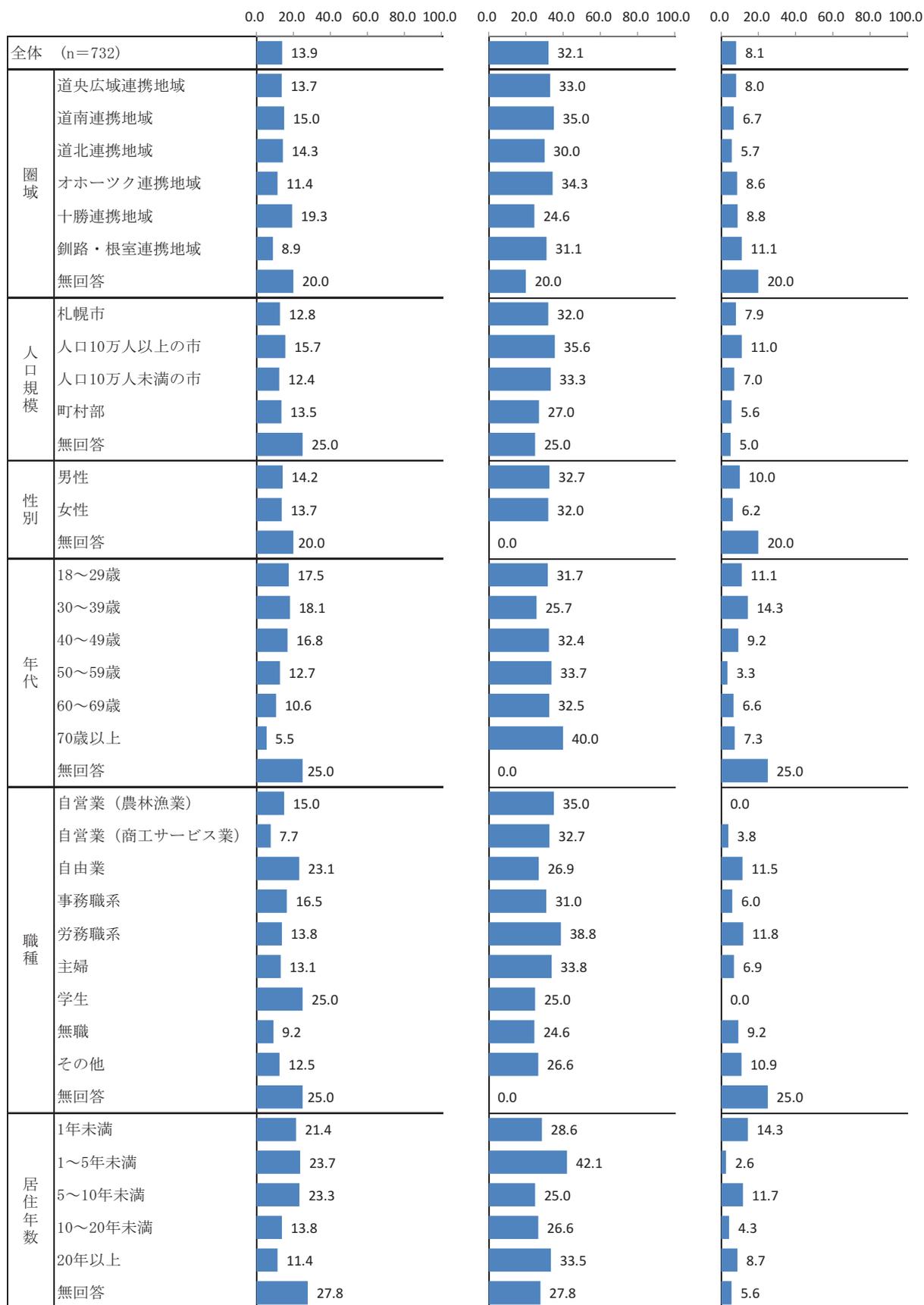
家庭のきずなが弱まること

地域の連帯感がうすれること



青少年の教育

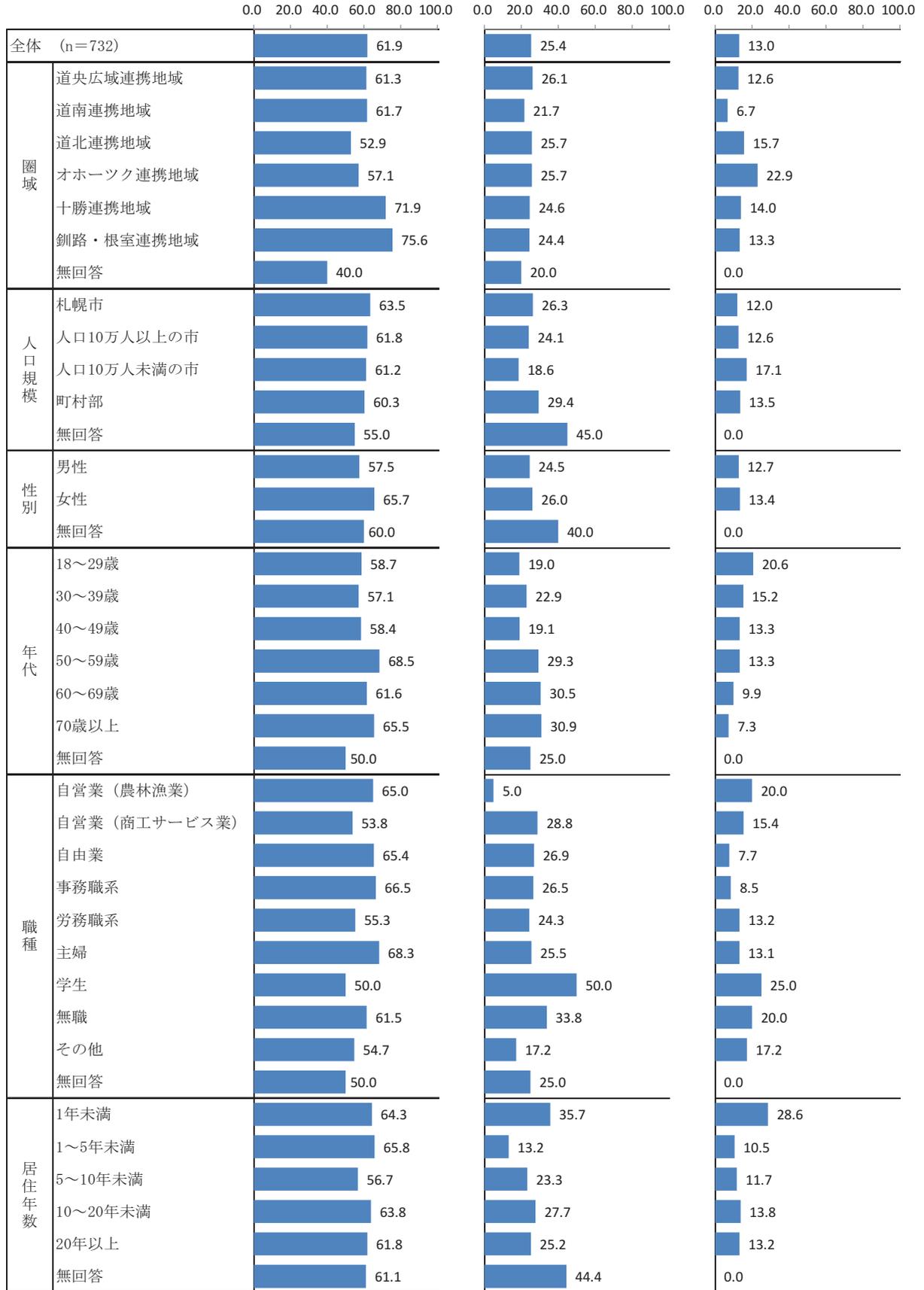
生活の安心、安全をおびやかす
交通事故
犯罪

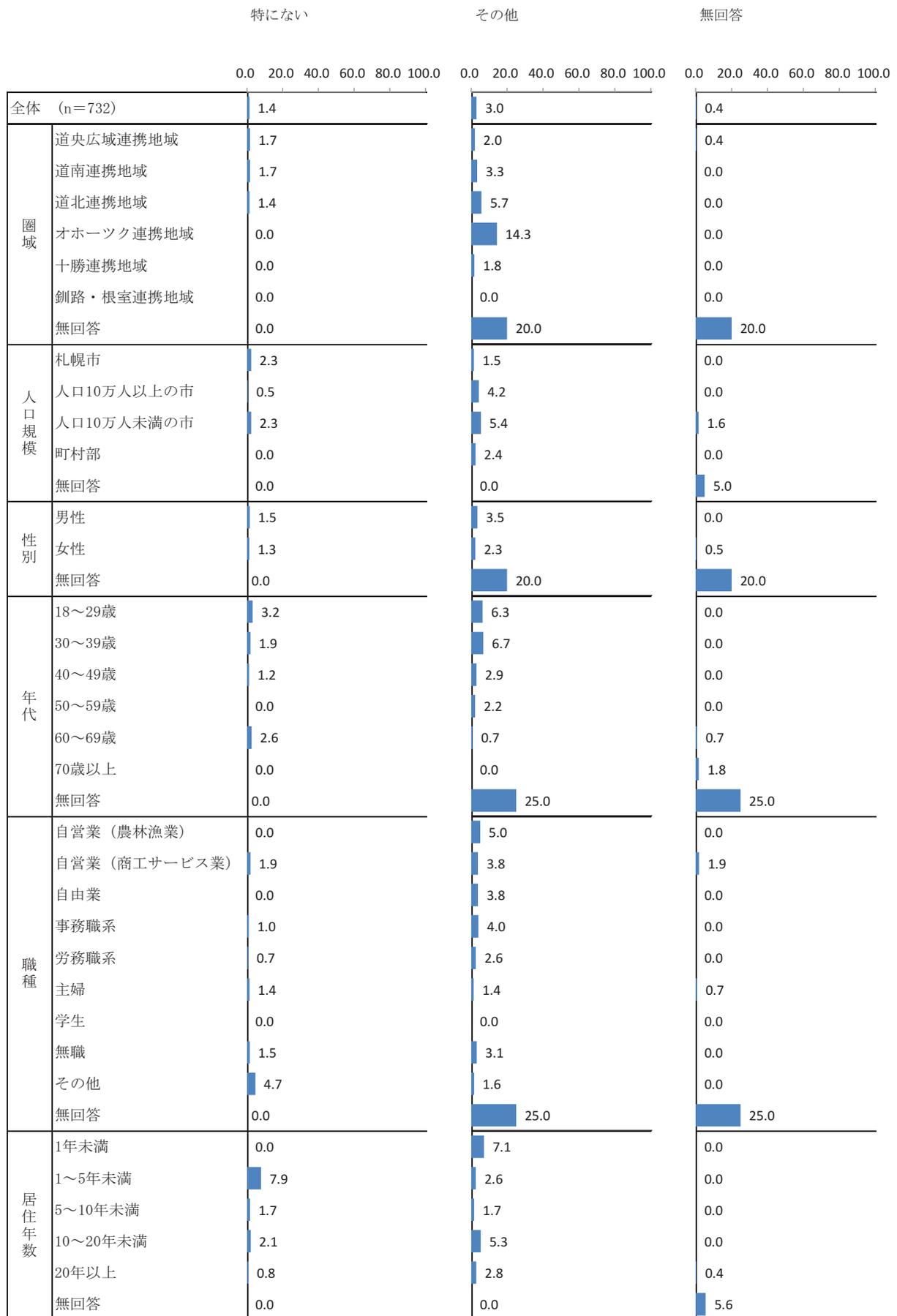


地震や台風などの災害

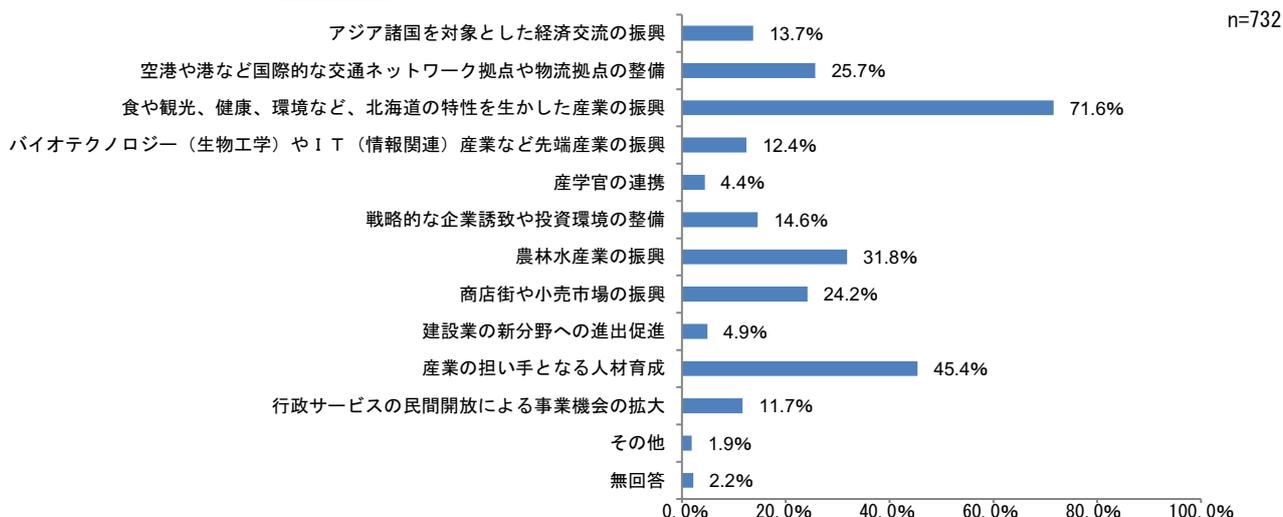
地球温暖化や資源のリサイクル

個人情報の流出・プライバシーの侵害





問6 急速な国際化が進む中で、道内の経済・産業の活性化を図るためには、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」（71.6%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「産業の担い手となる人材育成」（45.4%）、「農林水産業の振興」（31.8%）の順となっている。

【圏域別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、道北連携地域（77.1%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（75.6%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、道南連携地域（51.7%）が最も割合が高く、次いで道北連携地域（50.0%）となっている。

【人口規模別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、人口10万人未満の市（74.4%）が最も割合が高く、次いで札幌市（71.4%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、人口10万人未満の市（48.8%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市（47.1%）となっている。

【性別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、男性67.8%、女性75.0%となっており、「産業の担い手となる人材育成」については、男性41.0%、女性49.5%となっている。

【年代別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、18～29歳（77.8%）が最も割合が高く、次いで70歳以上（76.4%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、60～69歳（53.6%）が最も割合が高く、次いで18～29歳（52.4%）となっている。

【職種別】

「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、主婦（77.9%）が最も割合が高く、次いで労務職系（73.0%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、無職（50.8%）が最も割合が高く、次いで主婦（47.6%）となっている。

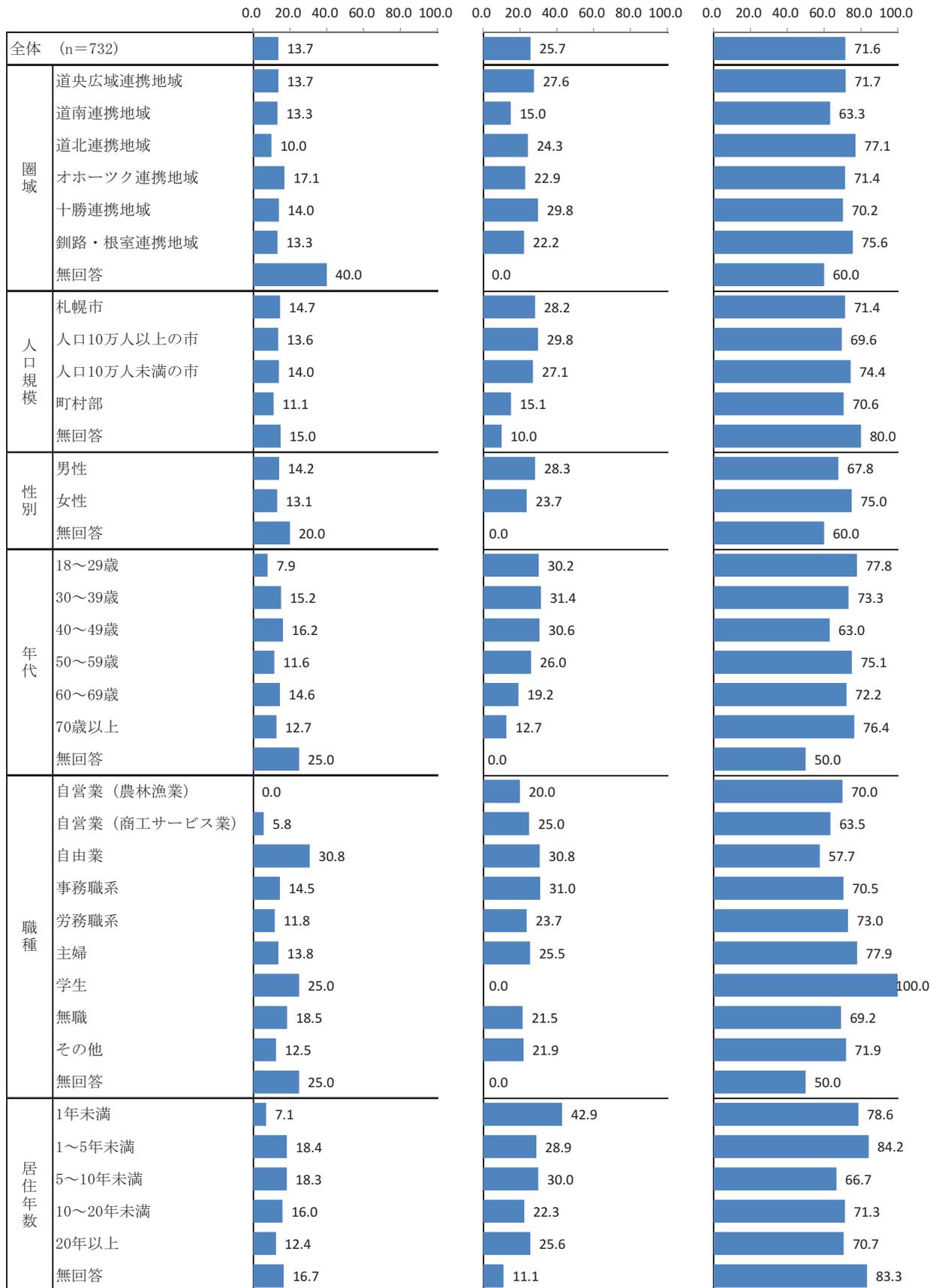
【居住年数別】

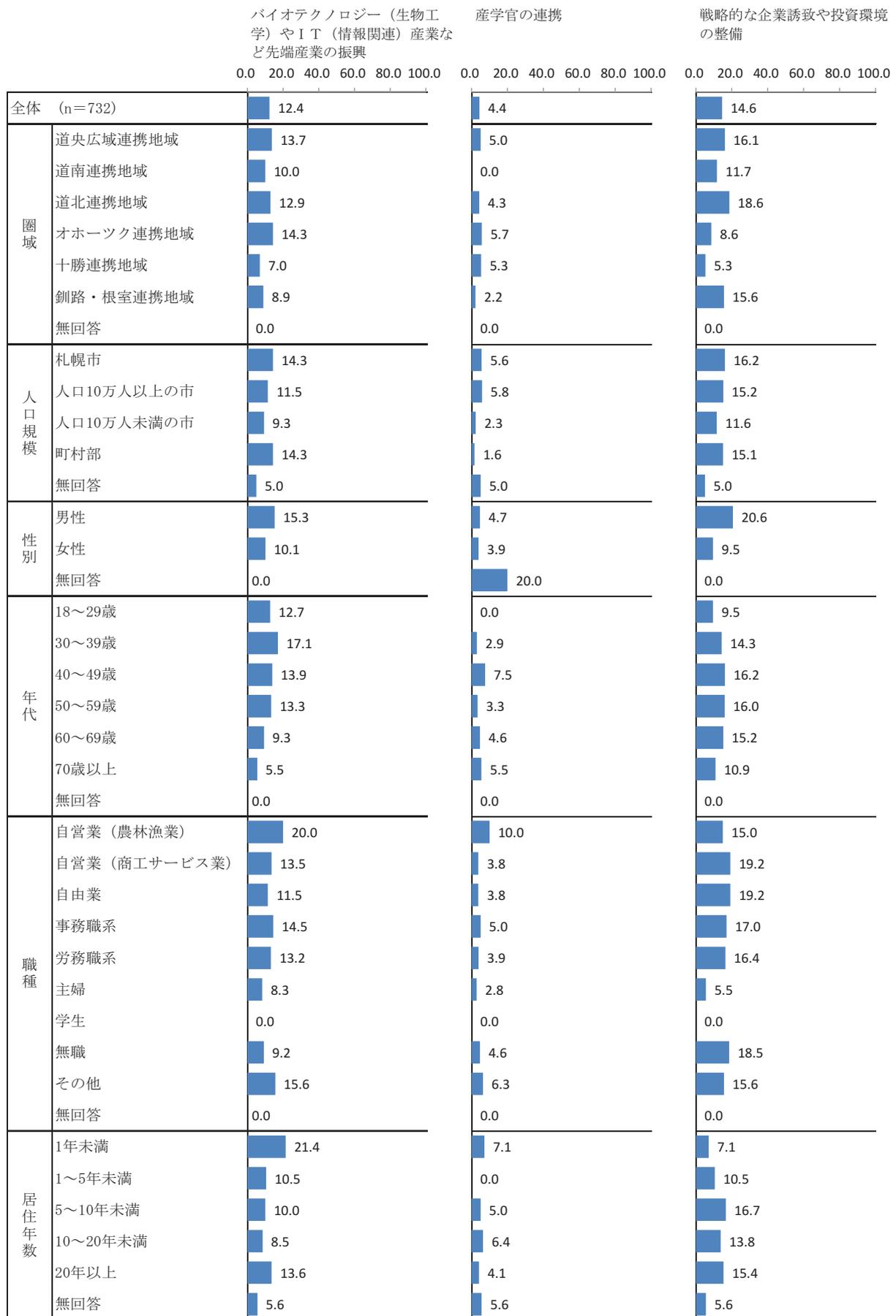
「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」については、1～5年未満（84.2%）が最も割合が高く、次いで1年未満（78.6%）となっている。「産業の担い手となる人材育成」については、10～20年未満（46.8%）が最も割合が高く、次いで20年以上（46.1%）となっている。

アジア諸国を対象とした経済交流の振興

空港や港など国際的な交通ネットワーク拠点や物流拠点の整備

食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興

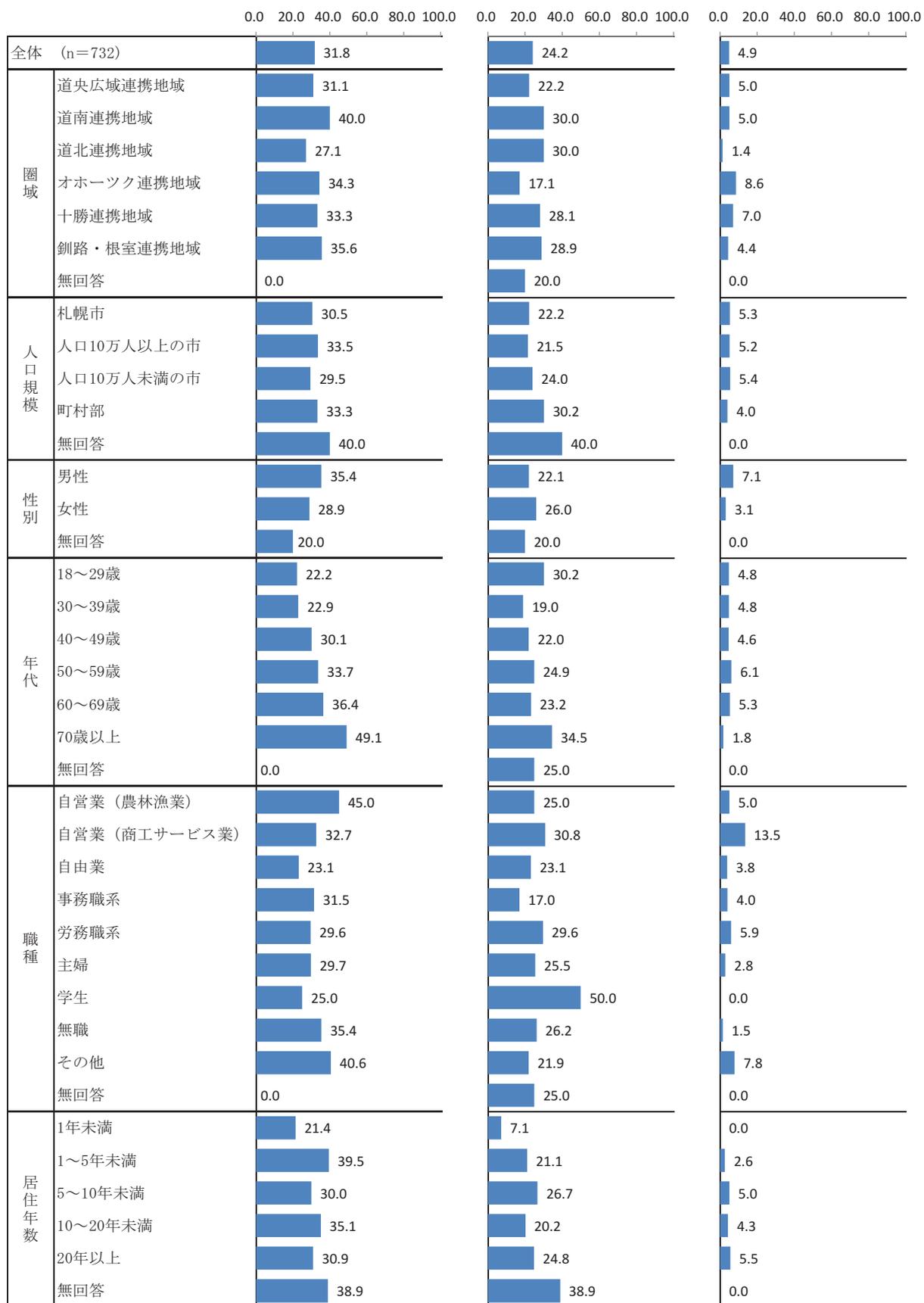




農林水産業の振興

商店街や小売市場の振興

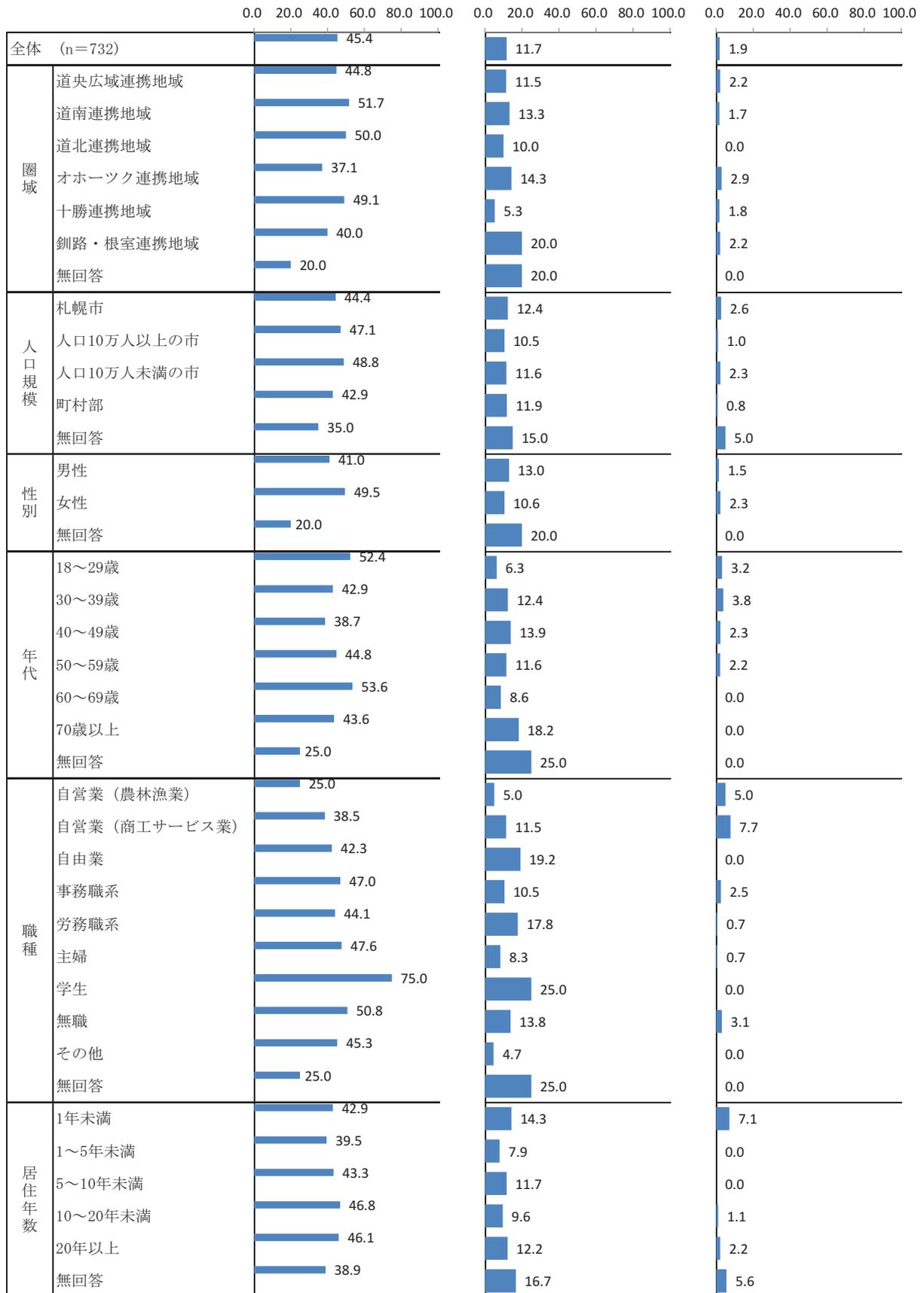
建設業の新分野への進出促進



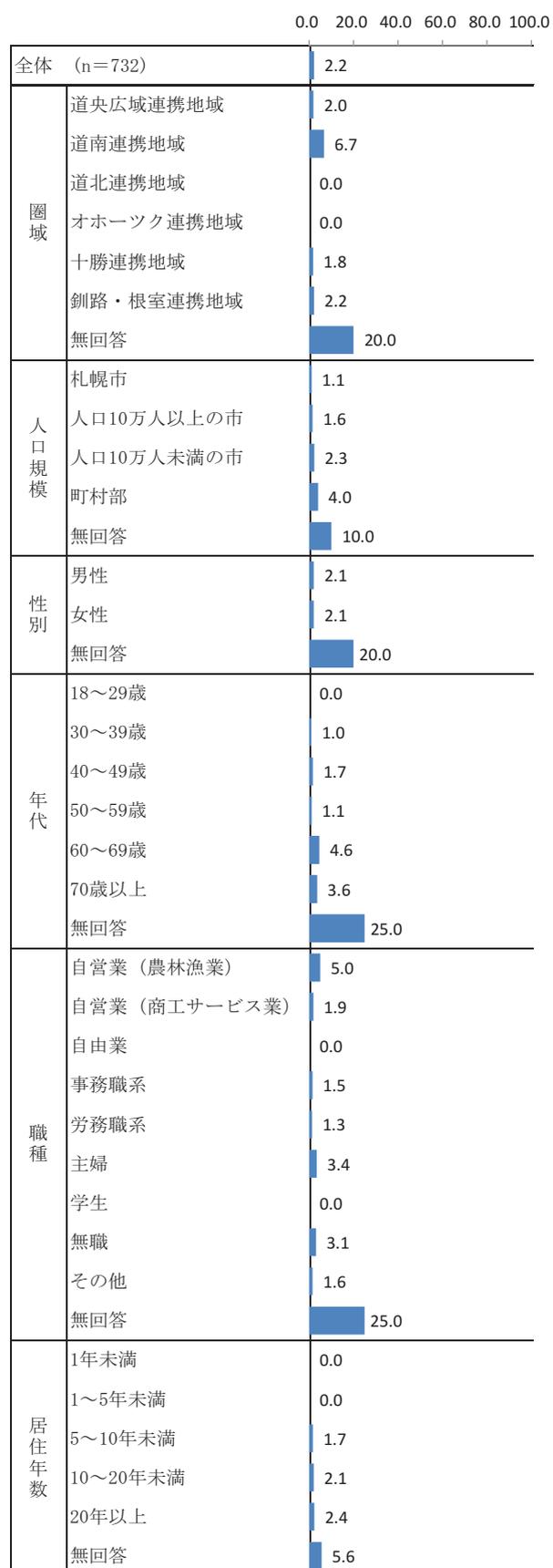
産業の担い手となる人材育成

行政サービスの民間開放による
事業機会の拡大

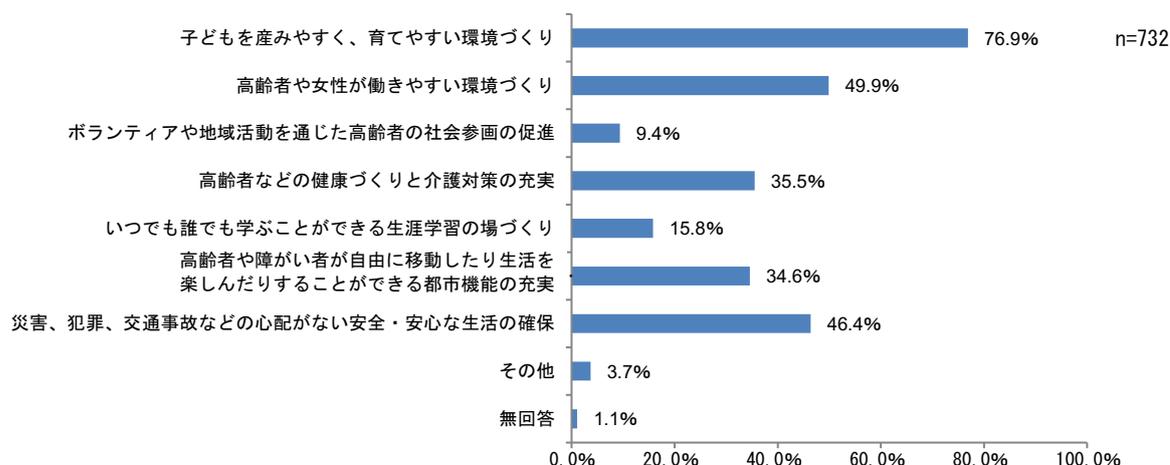
その他



無回答



問7 本格的な人口減少・少子高齢社会の到来に備えて、住みよい地域社会を実現していくために、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」(76.9%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」(49.9%)、「災害、犯罪、交通事故などの心配がない安全・安心な生活の確保」(46.4%)の順となっている。

【圏域別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、道南連携地域(83.3%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(82.9%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、オホーツク連携地域(65.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(57.8%)となっている。

【人口規模別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、町村部(81.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(77.4%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、人口10万人以上の市(53.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(49.6%)となっている。

【性別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、男性81.1%、女性73.5%となっており、「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、男性49.6%、女性50.8%となっている。

【年代別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、18～29歳(87.3%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(84.8%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、50～59歳(55.8%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(54.9%)となっている。

【職種別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、自営業(商工サービス)(82.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)と無職(80.0%)が同率となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、自営業(農林漁業)(60.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(57.9%)となっている。

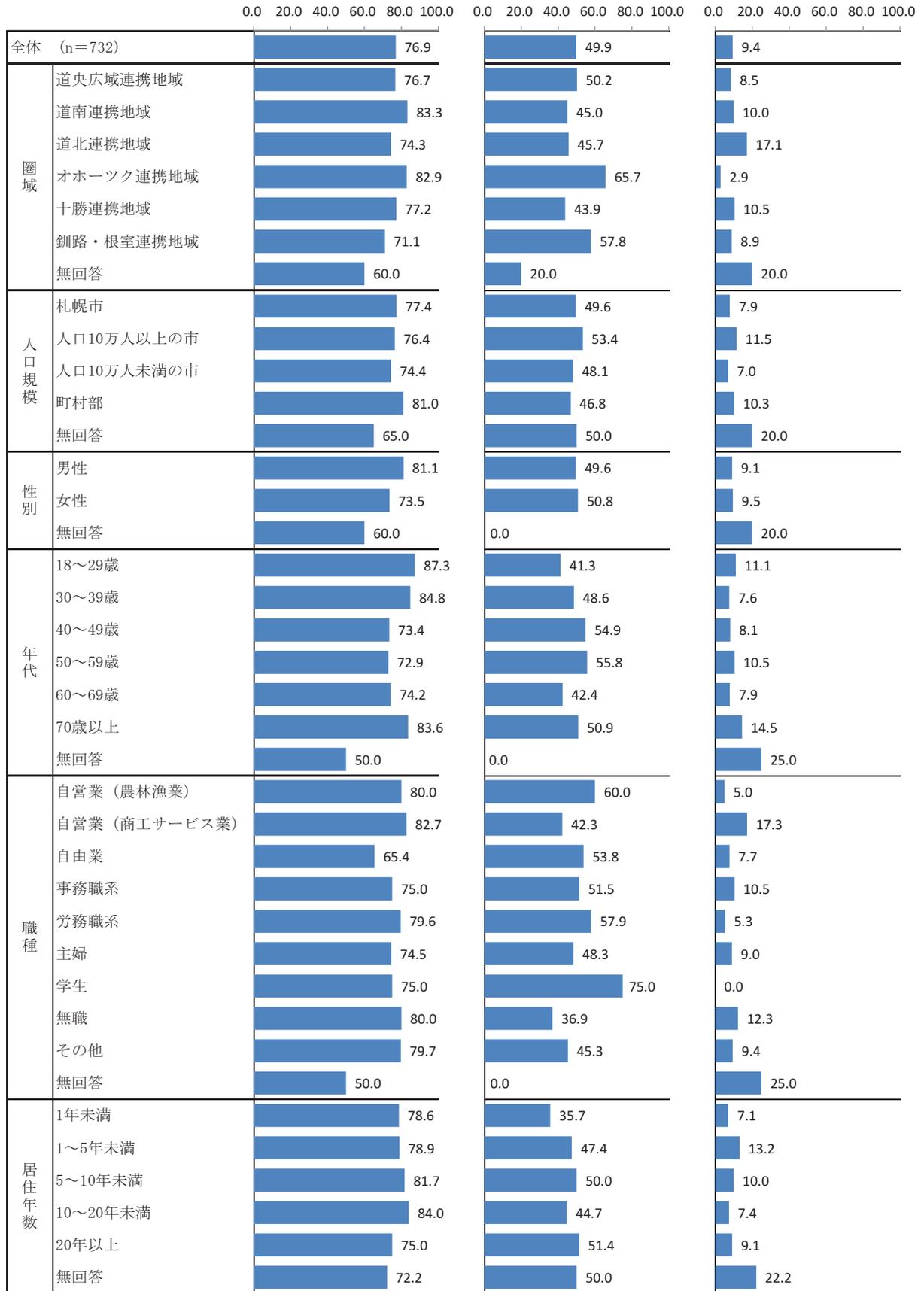
【居住年数別】

「子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり」については、10～20年未満(84.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(81.7%)となっている。「高齢者や女性が働きやすい環境づくり」については、20年以上(51.4%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(50.0%)となっている。

子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり

高齢者や女性が働きやすい環境づくり

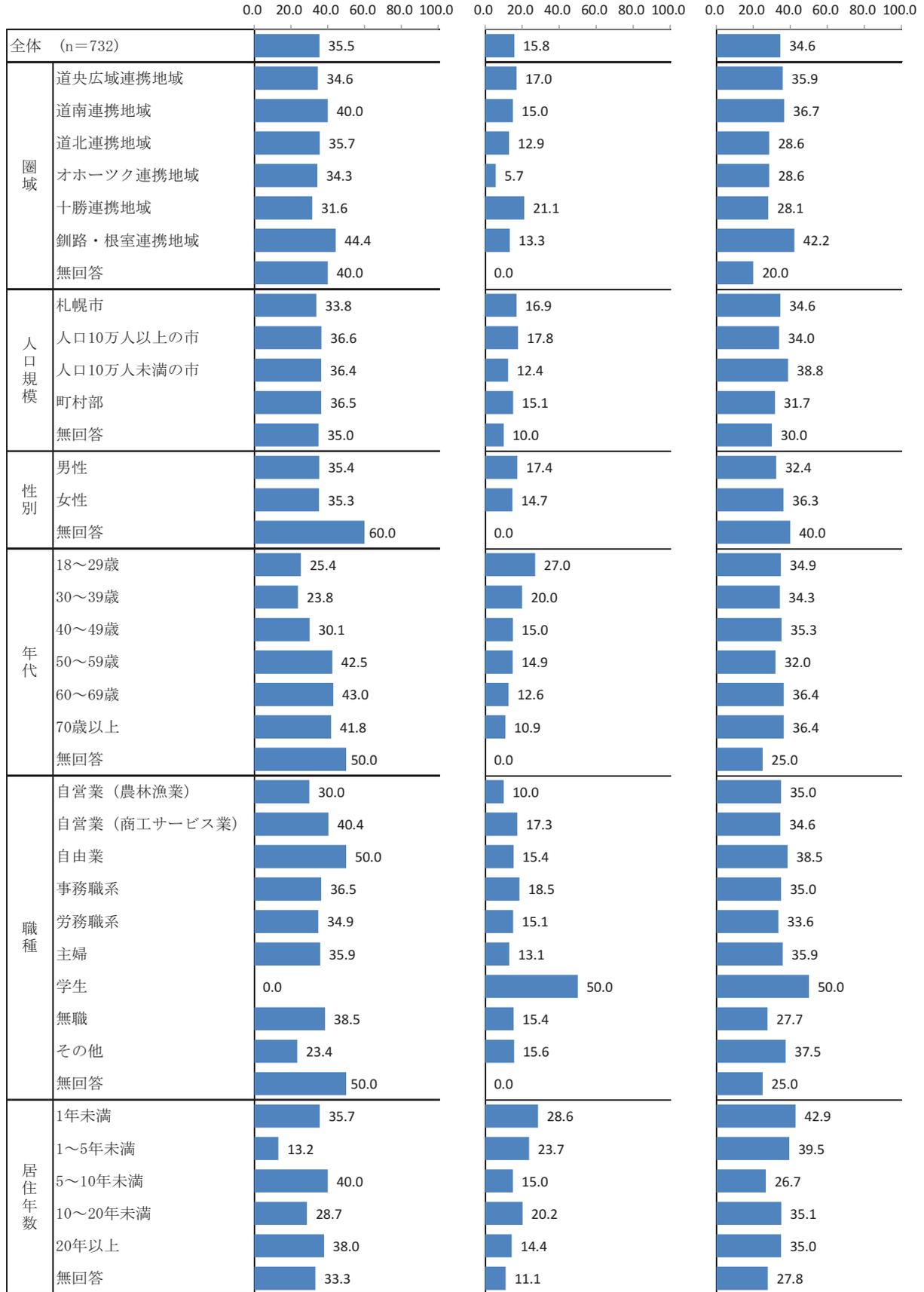
ボランティアや地域活動を通じた高齢者の社会参画の促進



高齢者などの健康づくりと介護
対策の充実

いつでも誰でも学ぶことができ
る生涯学習の場づくり

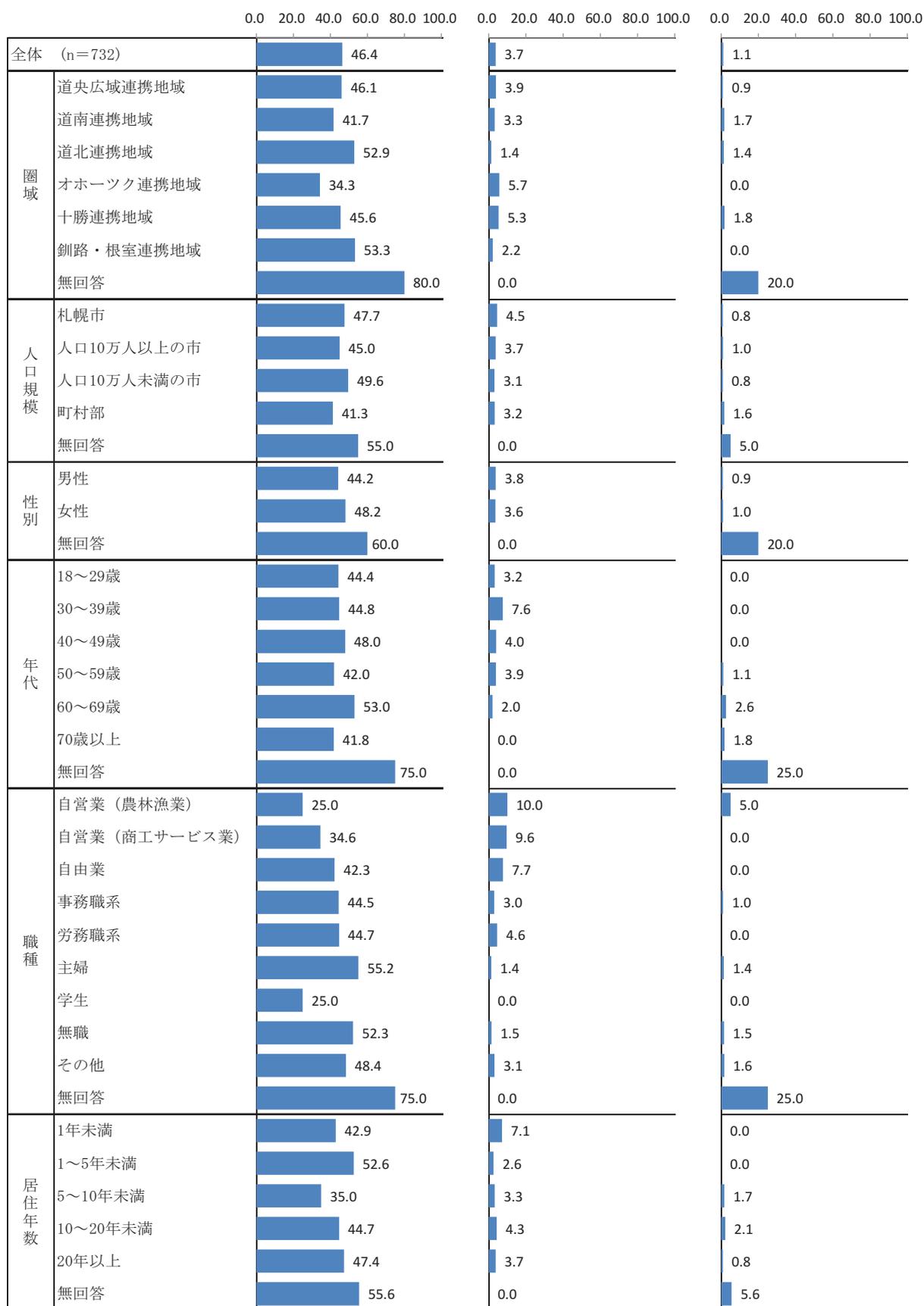
高齢者や障がい者が自由に移動
したり生活を楽しんだりするこ
とができる都市機能の充実



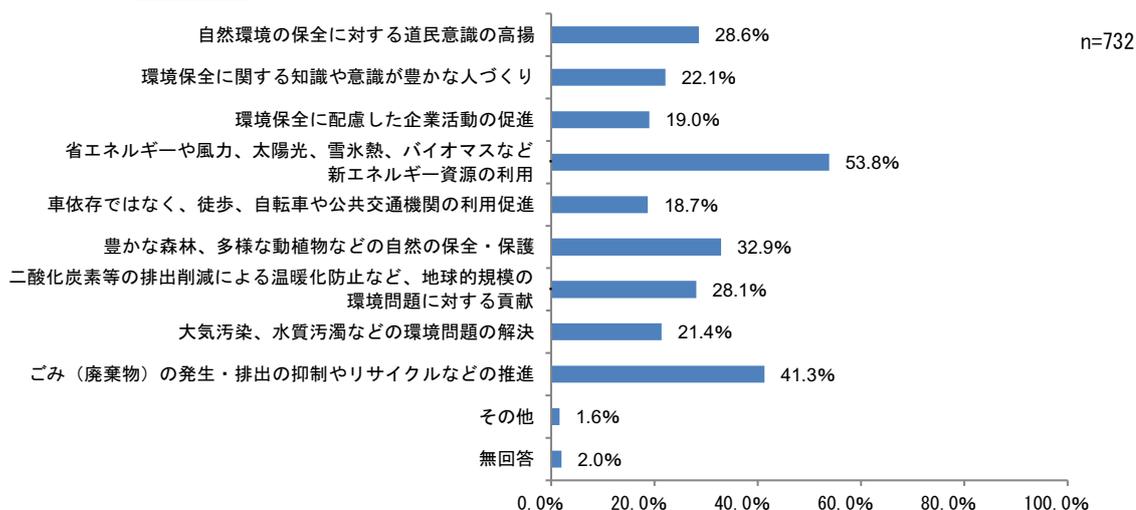
災害、犯罪、交通事故などの心配
がない安全・安心な生活の確保

その他

無回答



問8 人と自然が共生し、環境と調和した地域社会を構築していくにあたって、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」(53.8%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」(41.3%)、「豊かな森林、多様な動植物などの自然の保全・保護」(32.9%)の順となっている。

【圏域別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、オホーツク連携地域(65.7%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(60.0%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、道南連携地域(43.3%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(42.2%)となっている。

【人口規模別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、人口10万人未満の市(57.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(54.5%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、人口10万人以上の市(44.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(41.9%)となっている。

【性別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、男性54.3%、女性53.6%となっており、「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、男性38.6%、女性43.6%となっている。

【年代別】

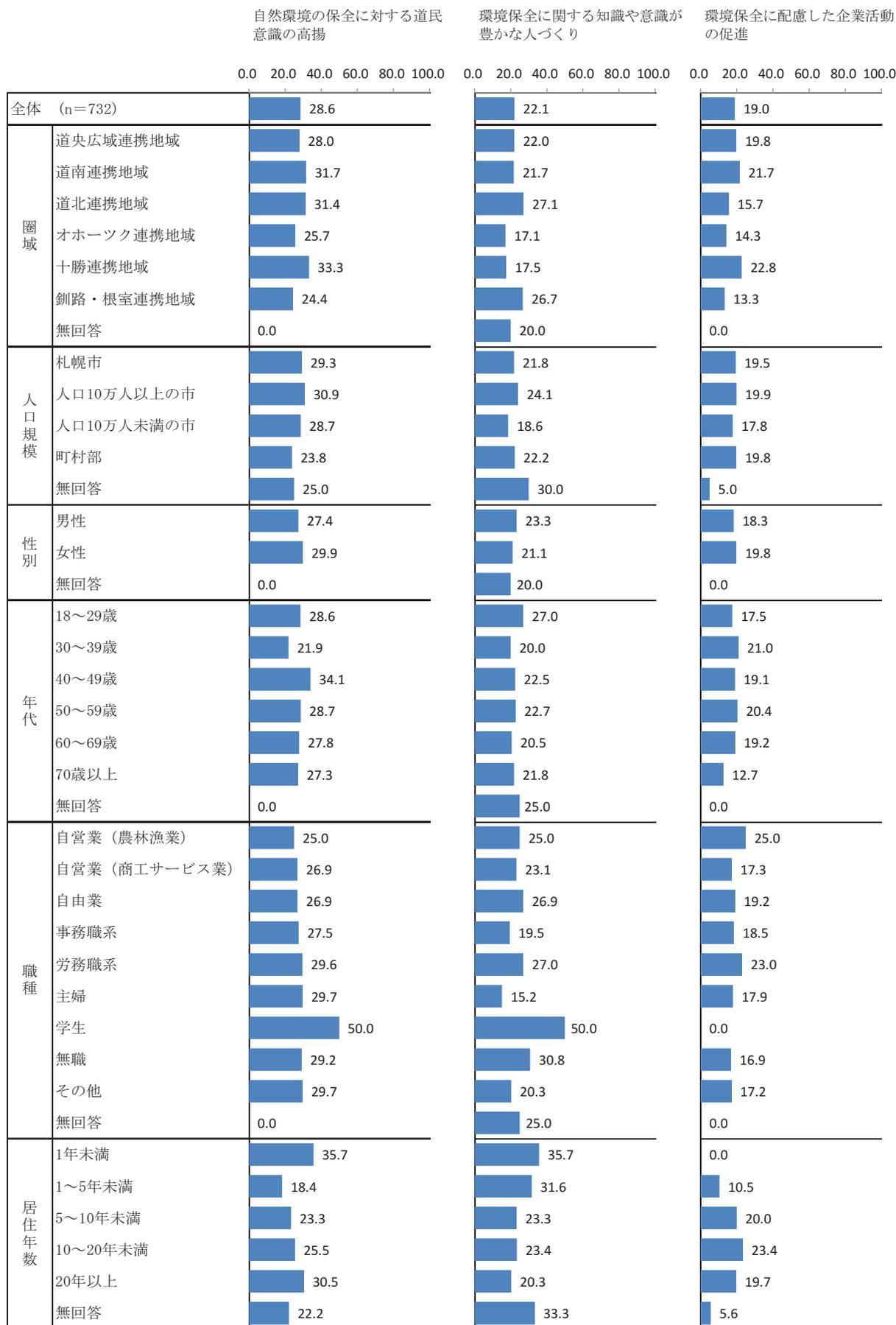
「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、50～59歳(58.0%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(55.5%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、18～29歳(54.0%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(41.1%)となっている。

【職種別】

「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、事務職系(60.0%)が最も割合が高く、次いでその他(56.3%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、その他(46.9%)が最も割合が高く、次いで自営業（農林漁業）(45.0%)となっている。

【居住年数別】

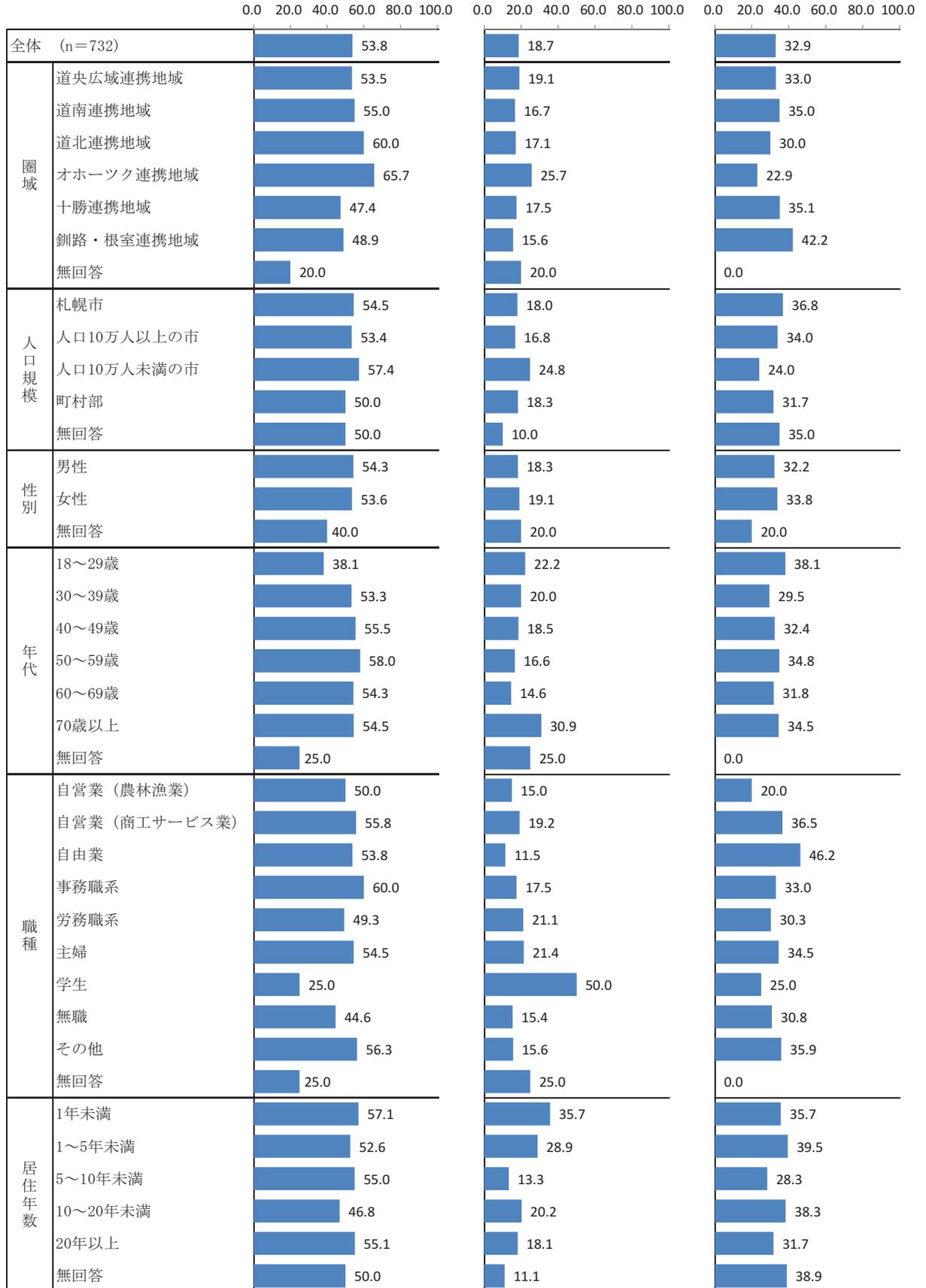
「省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用」については、1年未満(57.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(55.1%)となっている。「ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進」については、1～5年未満(47.4%)が最も割合が高く、次いで1年未満(42.9%)となっている。



省エネルギーや風力、太陽光、
雪氷熱、バイオマスなど新エネ
ルギー資源の利用

車依存ではなく、徒歩、自転車
や公共交通機関の利用促進

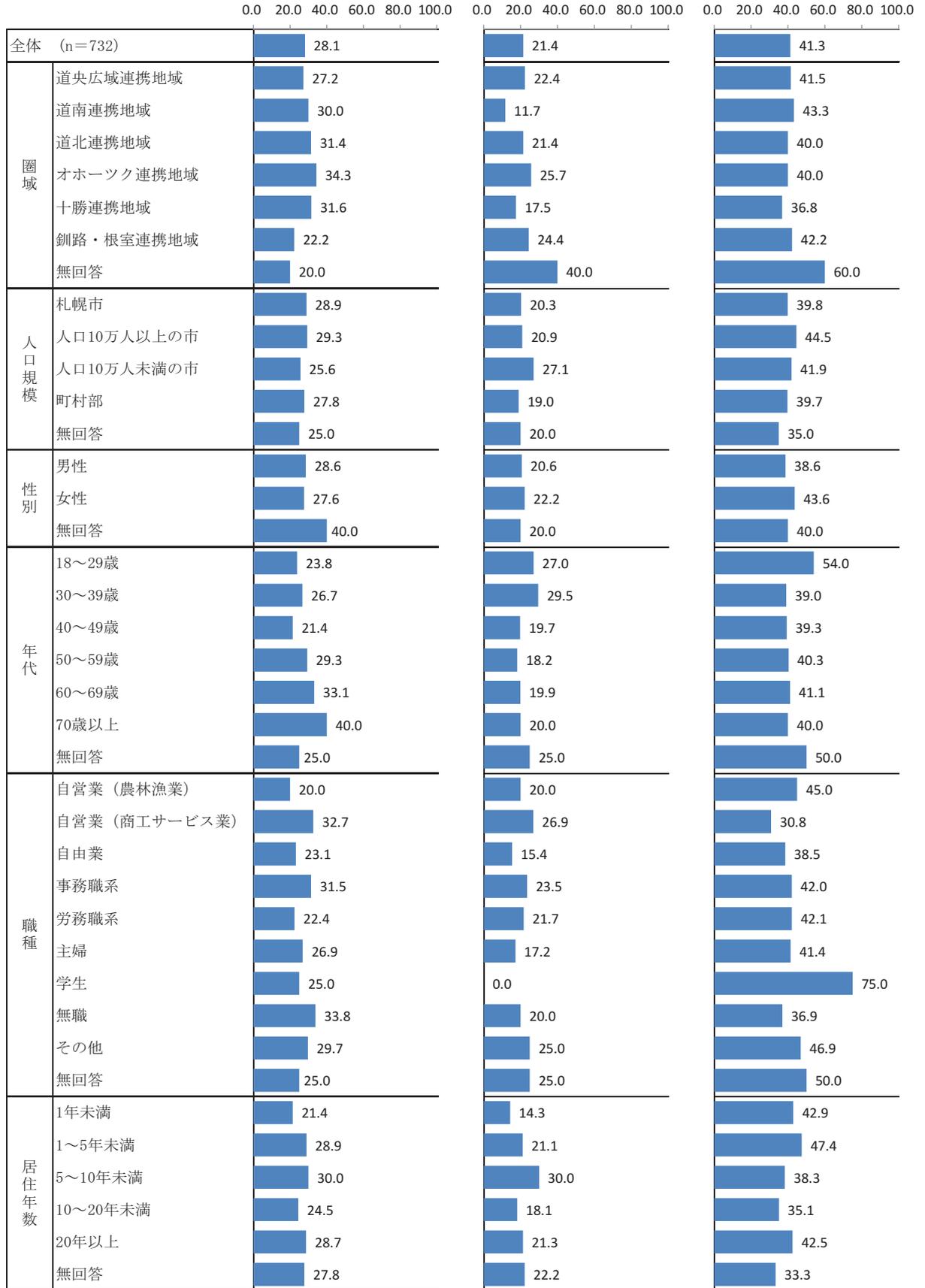
豊かな森林、多様な動植物など
の自然の保全・保護



二酸化炭素等の排出削減による
温暖化防止など、地球的規模の
環境問題に対する貢献

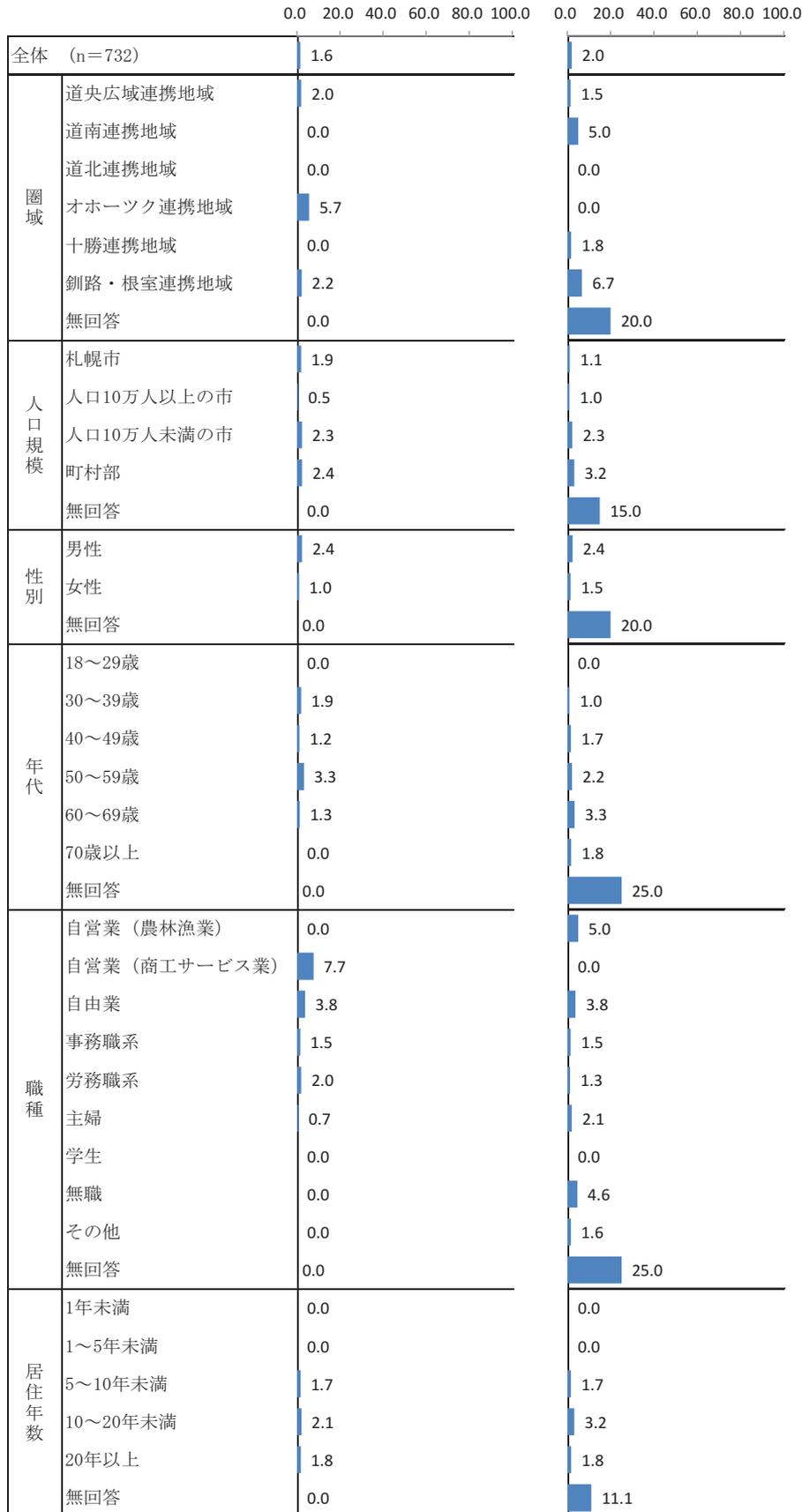
大気汚染、水質汚濁などの環境
問題の解決

ごみ（廃棄物）の発生・排出の
抑制やリサイクルなどの推進

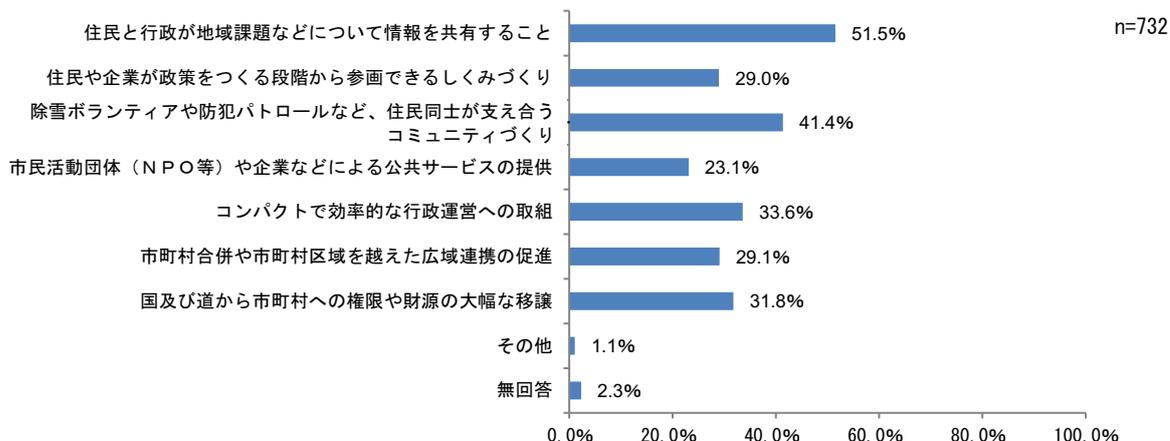


その他

無回答



問9 人口減少・高齢社会が進展する中で、地域社会を持続可能なものとしていくためには、地方自治体もまた、住民サービスを持続的に提供することのできる主体でなければならないと考えられます。そのために、今後、道はどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまでお選びください。



【全体】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」（51.5%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」（41.4%）、「コンパクトで効率的な行政運営への取組」（33.6%）の順となっている。

【圏域別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、道北連携地域（58.6%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（55.6%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、釧路・根室連携地域（53.3%）が最も割合が高く、次いで道北連携地域（45.7%）となっている。

【人口規模別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、人口10万人以上の市（53.9%）が最も割合が高く、次いで札幌市（51.9%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、人口10万人未満の市（51.2%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市（40.8%）となっている。

【性別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、男性49.6%、女性53.4%となっており、「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、男性34.5%、女性46.9%となっている。

【年代別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、70歳以上（60.0%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（56.3%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、70歳以上（49.1%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（44.4%）と18～29歳（44.4%）が同率となっている。

【職種別】

「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、自由業（57.7%）が最も割合が高く、次いで無職（53.8%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、主婦（49.7%）が最も割合が高く、次いでその他（46.9%）となっている。

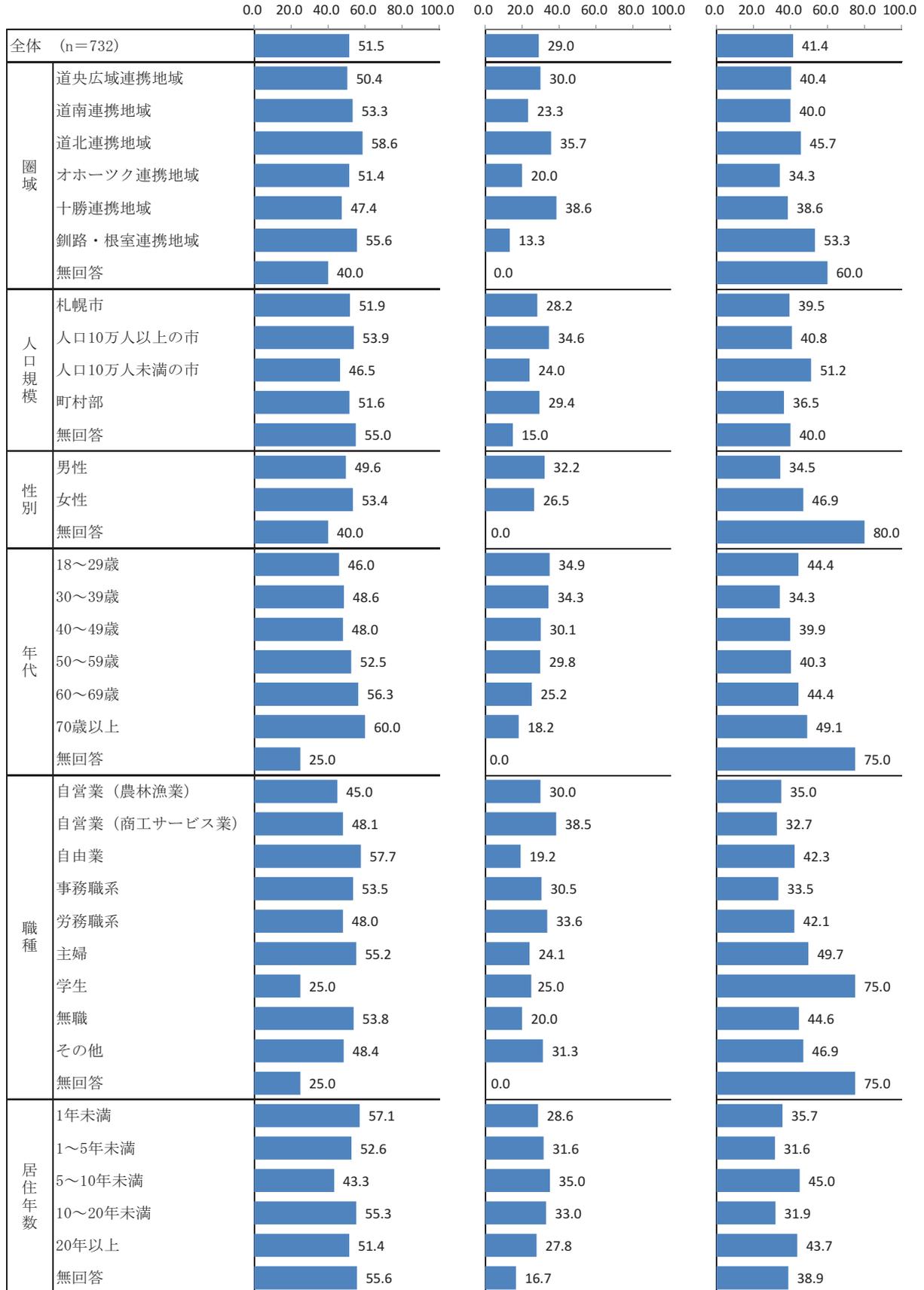
【居住年数別】

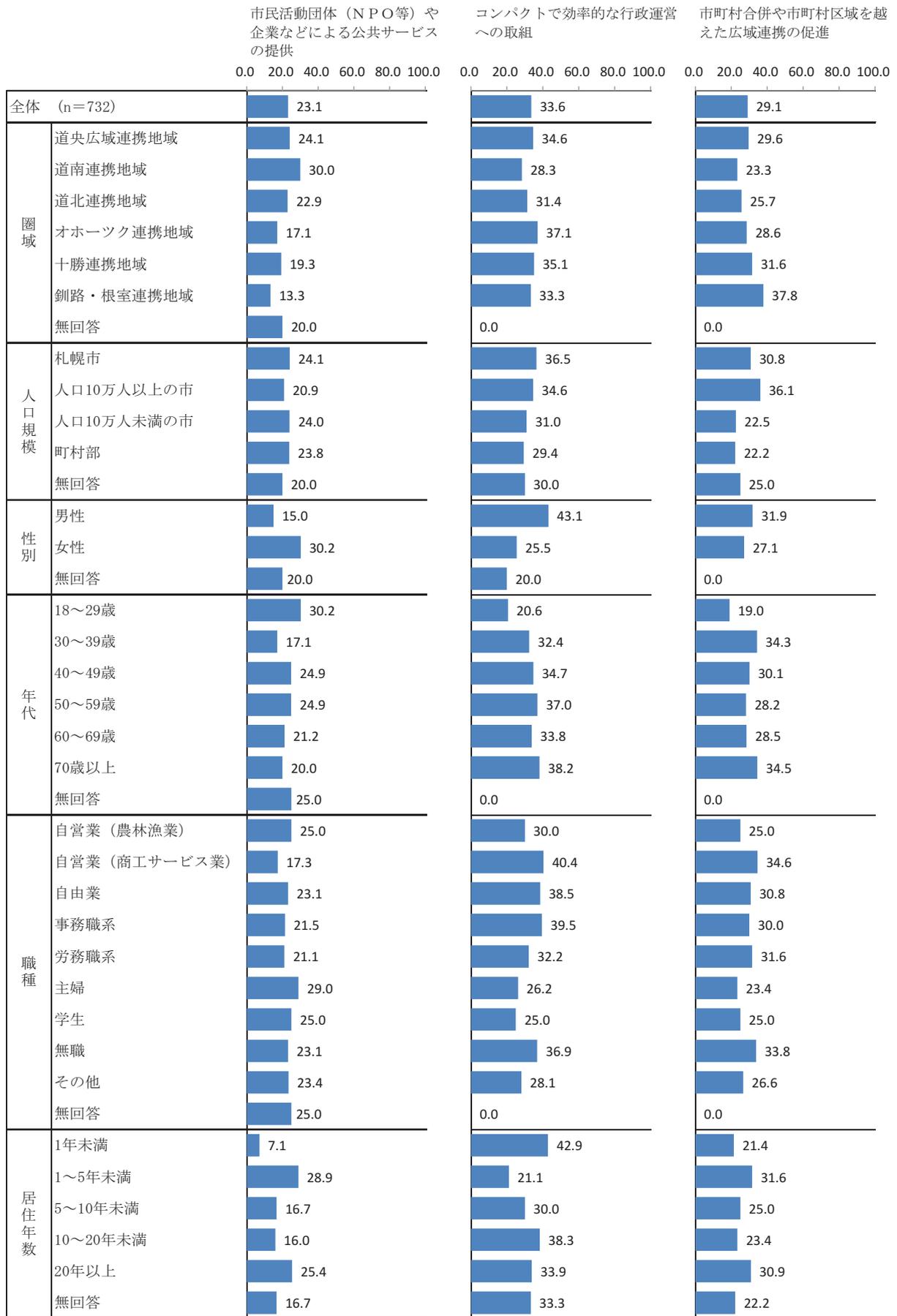
「住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること」については、1年未満（57.1%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（55.3%）となっている。「除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり」については、5～10年未満（45.0%）が最も割合が高く、次いで20年以上（43.7%）となっている。

住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること

住民や企業が政策をつくる段階から参画できるしくみづくり

除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり

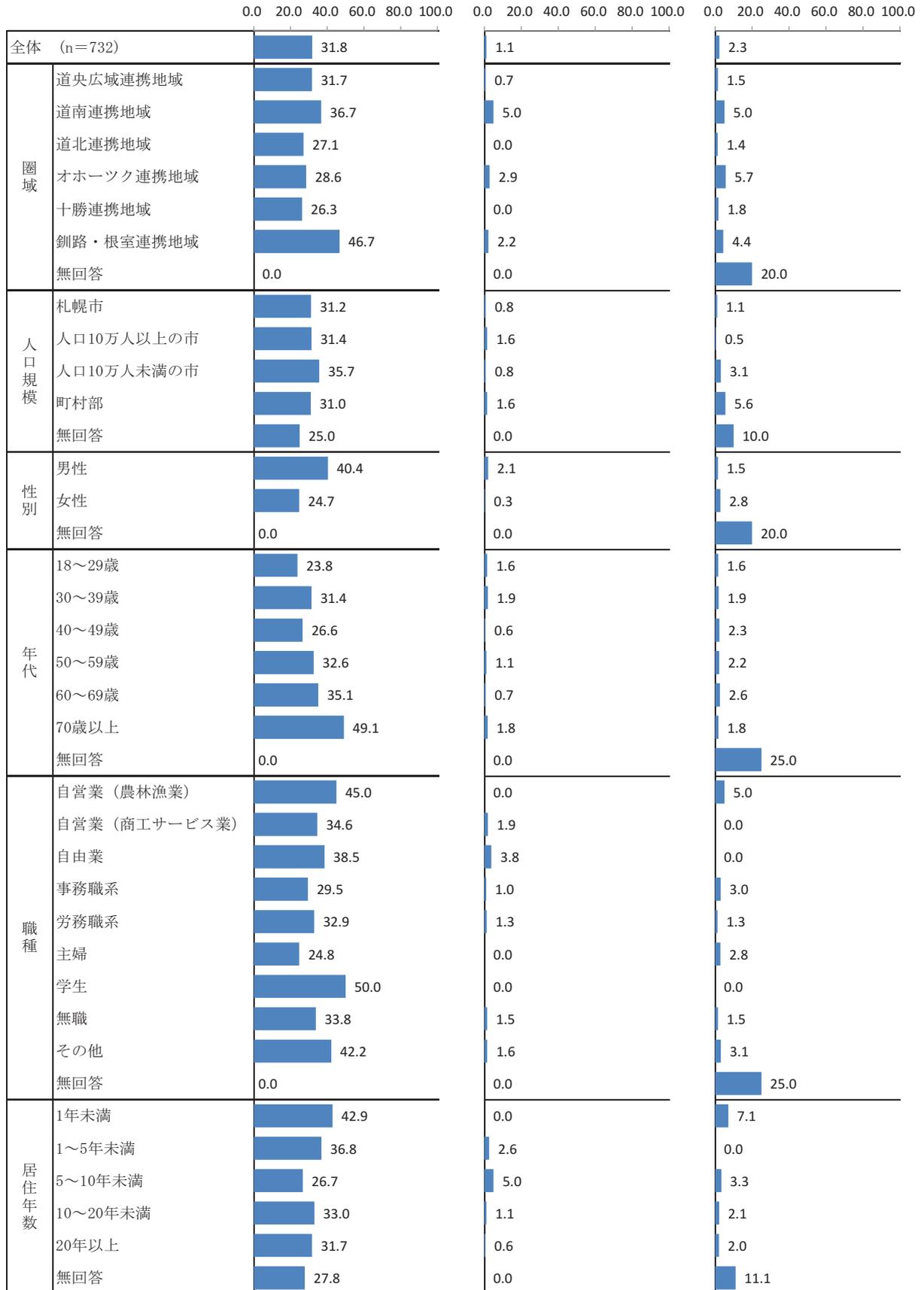




国及び道から市町村への権限や
財源の大幅な移譲

その他

無回答



■「北海道総合計画について」の調査を終えて

現在住んでいる市町村の住み心地について、「住み良い」(32.5%)と「どちらかといえば住み良い」(40.0%)をあわせると7割以上であり、生活全般の満足度についても、6割以上の方が「満足している」(14.6%)または「まあまあ満足している」(47.1%)と回答されている。

一方、今後、家庭や地域で大きな問題になると思われることは、「老後の生活」(81.6%)という回答が最も多くなっている。また、「地震や台風などの災害」(61.9%)という回答が、前回(2014年)調査よりも大幅に増加し、約6割となったことが特徴的である。

北海道の経済・産業の活性化に向けて今後力を入れるべきこととしては、「食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興」(71.6%)という回答が最も多く、次いで、「産業の担い手となる人材育成」(45.4%)となっており、その割合は、前々回の調査以降、連続して増加している。

こうした調査結果を踏まえながら、今年度実施している北海道総合計画の推進状況に関する中期的な点検・評価を進め、実効性ある政策展開を図っていく。

(総合政策部政策局計画推進課)